ダブルホーム

地域と共に創る「新たなふるさと」

2022年度 活動報告書

新二郎＆新二郎 Jr.

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

75th NIIGATA UNIVERSITY

はじめに

新潟大学では、2007年度からダブルホーム活動をスタートし、2011年度からは新潟大学独自のプログラムとして継続しています。ダブルホームは、学生たちが所属する学部・学科を「第一のホーム」とするのに対して、文系・理系・医歯系の区分を越えて「第二のホーム」を運営し、地域活動をとおして人間としての成長を目指すプログラムです。本プログラムは全学に開かれ、学部や学年を越えたチーム活動、その学生たちの主体的取り組みを支援する教職協働、学生が参加時から卒業まで活動を継続できる準正課活動であることが大きな特徴です。近年は、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組むことでシチズンシップ（社会に対する責任感）やチームワーク力を育成していくことに重点を置いています。

スタートから15年目を迎えた2022年度は、学生394人、教職員65人が参加しました。昨年に引き続き新型コロナウィルス感染症対策等の制約がある中での活動となりましたが、地域の皆様のご理解とご協力を賜り、地域での活動を継続することができました。12月17日には、ダブルホームの意義と未来を共に考えるシンポジウムを3年ぶりの対面形式を導入したハイブリッドで開催しました。学内はもとより学外の皆さまを含めて総勢219人もの参加があり、参加者のダブルホーム発展への熱意を実感する一日となりました。

このたび、各ホームが1年間の活動の振り返りについてまとめた報告を編集し、2022年度の活動報告書として刊行いたします。ご協力くださった全ての皆さまに感謝いたします。

新潟大学　教育基盤機構　未来教育開発部門　ダブルホーム支援室

目次

はじめに 01

ダブルホームとは
2022 ダブルホーム活動地域マップ 02

2022 年度ダブルホーム活動一覧 03

2022 年度ダブルホーム活動の概要
新加入生歓迎プロジェクト～大説明会
地域実習報告会 04

オープンキャンパス「ダブルホーム情報館」
第 14 回　ダブルホームシンポジウム
ダブルホームワークショップ 2022 05

各ホームの報告 06

06 A blange
08 B いろはの風
10 D さんせっと
12 E アース・アース
14 F Natural
16 G 暖
18 H ほたる
20 I あい
22 J なごみ
24 K かもろに
26 L 輪～つながる～
28 N ねすと
30 Q Sun Q
32 R あっとほーむ
34 S しいたけ
36 T ほりごたつ
38 U まほろば
40 V かわせみ

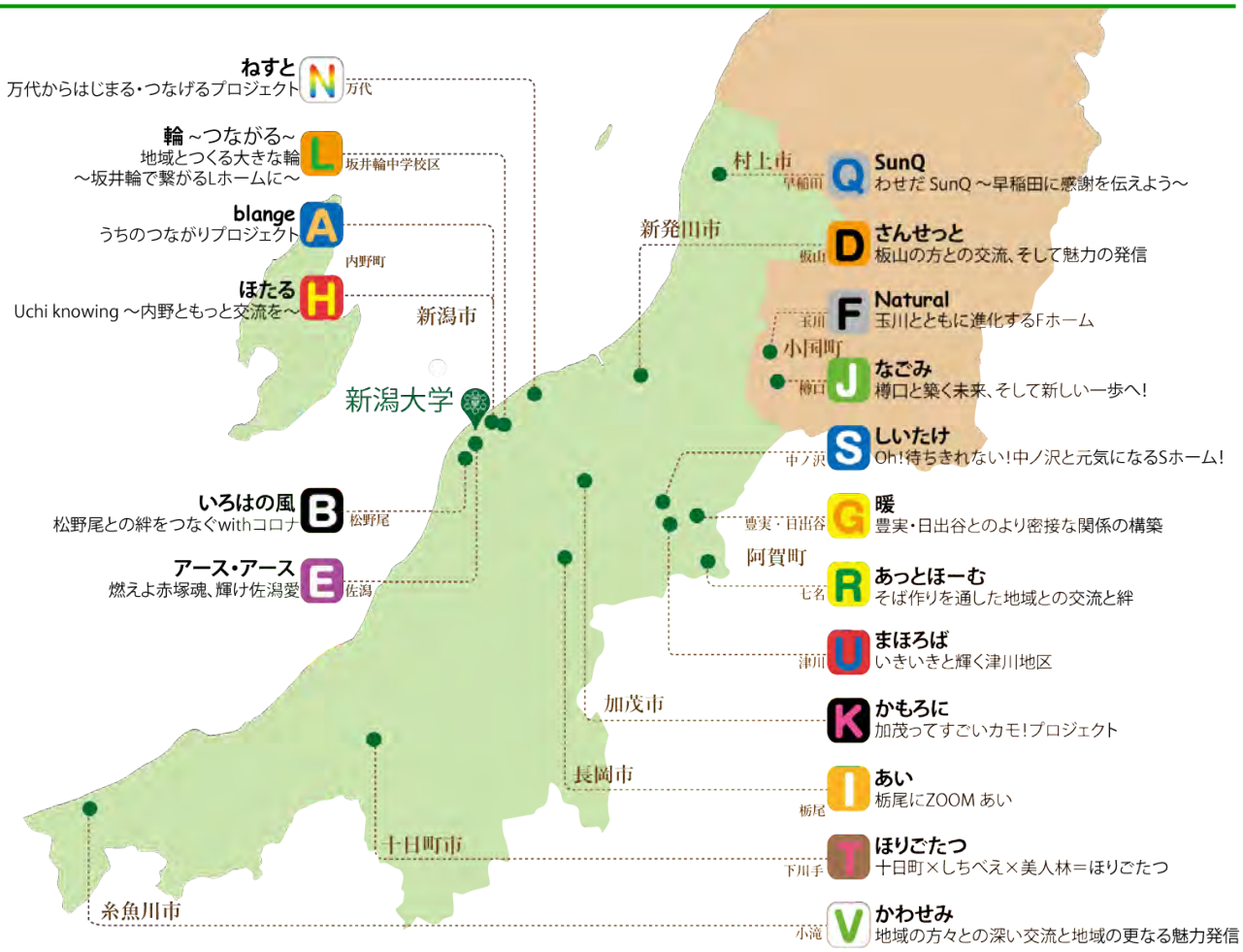
ダブルホームとは

ダブルホームは、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組むプログラムです。地域の思いと向き合う中で「自分たちに何ができるか」をチームで考え、活動を計画・実践・省察することで、これからの社会生活に必要なシチズンシップやチームワーク力を育みます。

専門分野の学問を学ぶ学部・学科を「第一のホーム」とするのに対し、総合大学の特性をいかし、専門の枠を越えて学生たちが集まり、学び合う場が「第二のホーム」です。

多様な学問分野・領域の学生が教職員とともに「第二のホーム」を運営し、地域と連携しながら活動を行います。ともに地域課題に取り組む中で人間性を育みます。

2022 ダブルホーム活動地域マップ



2022年度　ダブルホーム活動一覧

ホーム	ホーム名 （プロジェクトテーマ）	活動地域	活動内容
A	blange （うちのつながりプロジェクト）	新潟市西区 内野町 大学南	・梅プロジェクト　・内野マップ作成　・内野まちあるき ・南心会定例会参加　・ホームページ作成　・新大ランド
B	いろはの風 （松野尾との絆をつなぐwithコロナ）	新潟市西蒲区 松野尾地区	・まち歩き　・田舟乗船体験会　・ミニ運動会 ・クリスマス会　・豆まき会　・卒業を祝う会
D	さんせっと （板山の方との交流、そして魅力の発信）	新発田市 板山地区	・ヒメサユリ講和会　・村歩き　・公園整備＆タケノコ堀 ・オトナサマースクール　・稲刈り　・卒業式
E	アース・アース （燃えよ赤塚魂、輝け佐潟愛）	新潟市西区 赤塚地区	・佐潟散策　・灯籠づくり　・佐潟まつり ・ハスフラワーづくり　・ハーブ園訪問　・春の潟普請
F	Natural （玉川と共に進化するFホーム）	山形県小国町 玉川地区	・看板作成　・萱野峠探索　・グランドゴルフ ・雪堀り
G	暖 （豊実・日出谷とより密接な関係の構築）	阿賀町日出谷 豊実地区	・草刈り＆笹の葉採集　・キャンドルナイト ・フォトアルバムづくり
H	ほたる （Uchi knowing～内野ともっと交流を～）	新潟市西区 内野町	・まち歩き　・内野美化プロジェクト ・新川周辺ごみ拾い　・新大ランド
I	あい （栃尾にZOOM あい）	長岡市 栃尾地区	・地域散策＆懇談会　・栃尾まつり　・てまりづくり体験 ・トチオーレ秋あじ祭り　・ユニホッケー交流会 ・とちお遊雪まつり　・保育園訪問
J	なごみ （樽口と築く未来、そして新しい一歩へ！）	山形県小国町 樽口地区	・わらび園開園準備＆閉園作業（樽口） ・別俣訪問　・スノーフェスタ（別俣）
K	かもろに （加茂ってすごいカモ！プロジェクト）	加茂市	・まち歩き　・あかりば　・クリスマスイベント ・塞の神
L	輪～つながる～ （地域とつくる大きな輪 ～坂井輪で繋がるLホームに～）	新潟市西区 坂井輪中学校区	・まちあるき　・子ども食堂 ・防災ワークショップ　・まちづくり協議会との顔合わせ
N	ねすと （万代からはじまる・つなげるプロジェクト）	新潟市 万代地区	・万代散策　・新潟まつり特番 ・NSTまつり　・新大WeeK ・おむすびパンフレット完成
Q	SunQ （わせだSunQ ～早稲田に感謝を伝えよう～）	村上市 早稲田地区	・かわら版発行　・みよし様参拝　・しめ縄づくり ・しめ縄リース試作打合せ　・才の神　・振り返り会
R	あっとほーむ （そば作りを通した地域との交流と絆）	阿賀町 七名地区	・地域散策　・上川そば祭り
S	しいたけ （Oh！待ちきれない！ 中ノ沢と元気になるSホーム！）	阿賀町 中ノ沢地区	・地域訪問　・見晴台づくり　・しめ縄づくり ・Sホーム通信作成　・かや刈
T	ほりごたつ （十日町×しちべえ×美人林 ＝ほりごたつ）	十日町市 松之山 下川手集落	・湿地米しちべえの栽培（苗代作り～脱穀、草取り） ・米販売　・「かわら版」の発行　・道普請（春・秋） ・さいの神
U	まほろば （いきいきと輝く津川地区）	阿賀町 津川地区	・まち歩き　・風舟交流会への参加 ・地域の方とのZoomミーティング　・クイズ大会準備
V	かわせみ （地域の方々との深い交流と 地域の更なる魅力発信）	糸魚川市 小滝地区	・高浪まつり　・地域訪問＆懇談会 ・小滝まるごとウォーキング　・レクリエーション

2022 年度
ダブルホーム活動の概要

4 月		三菱みらい育成財団助成継続決定
	5～13	新入生ダブルホーム参加相談会（Zoom、動画と資料提供、SNS 相談）
	12	「ダブルホーム活動入門Ⅰ」開始
	16	ダブルホーム意見交換会
	23	ダブルホーム大説明会
		「リーダーシップ演習Ⅱ Ⅲ-1」開始
5 月	8	第 1 回ダブルホームワークショップ
	20	第 1 回学生懇談会
	23	第 2 回ダブルホームワークショップ
		各ホームへ新加入生合流
6 月	13	「ダブルホーム活動入門Ⅱ」＆地域実習開始
7 月	30	地域実習報告会
8 月	9・10	web オープンキャンパス「ダブルホーム情報館」（動画配信）
		シンポジウム実行委員会立ち上げ
9 月	27	第 3 回ダブルホームワークショップ
10 月	3	「リーダーシップ演習Ⅱ-3・4」開始
	15～23	新大 WeeK：「ダブルホーム情報館」動画＆「おむすび・えんむすび」ポスター展示
11 月	10	第 4 回ダブルホームワークショップ
12 月	5	第 5 回ダブルホームワークショップ
	17	第 14 回ダブルホームシンポジウム「Face to Face ~咲き誇れ DH(ダブルホーム)つながりの輪~」
		「リーダーシップ演習Ⅰ・Ⅱ 4」説明会
1 月	27 30	第 6 回ダブルホームワークショップ＆学生懇談会
2 月	14	第 7 回ダブルホームワークショップ
	28	2022 年度活動報告書原稿提出
3 月	23	2022 年次活動計画書提出
	29	第 8 回ダブルホームワークショップ

ダブルホーム意見交換会

2022 年 4 月 16 日 13:00～16:00
Zoom によるオンライン開催

実行委員代表　萩原 大貴　（Q・N ホーム　法学部 3 年）

昨年度の活動を振り返り、今年度の活動をより実りあるものにするために、初めて開催しました。3 月末に全ホーム共通のミーティング進行シートを配布し、実行委員も参加して、1 年の活動の振り返りミーティングをホームごとに実施してもらいました。実行委員企画の「越後線ゲーム」などのアイスブレイクで場が温まり、ミーティングを開催することができたと思います。

そして、4 月に意見交換会と題して、匿名チャット機能「Slido」を使用し、他のホームの悩みに全体で答えを導き出すということを実施しました。多くのホームで同じ課題に直面しており、それはあるホームは既に解決済みだということがあり、ダブルホーム全体で意見交換を行う機会をつくることができ、とても良かったです。

地域実習報告会

日時：2022 年 7 月 30 日（土）13:00～16:30
会場：総合教育研究棟 E260・他&Zoom

実行委員代表　古井 ひかる　（B ホーム　経済科学部 3 年）

地域実習報告会は、「地域活動の魅力を発見し、地域との関係づくりに向けて自分たちで取り組みたいことを考える」をテーマに開催しました。今回は、地域の魅力を発見するだけでなく、これまで多くのホームで課題とされていた地域との関係づくりをテーマとしたことで、参加者全員が改めて考えるきっかけになったと感じています。また、開催方法をハイブリット方式としたことにより、非対面でのイベントが続き、交流が少なくなっていた他ホームとの交流も再会することができました。実行委員会としては、ハイブリット方式で各ホームの皆さまにご迷惑をおかけする時もありましたが、ダブルホーム参加者の表情や交流を見ながら開催できたことを嬉しく思います。

第１4回　ダブルホームシンポジウム

日時：2022 年 12 月 17 日（土）13：00～17：00
会場：総合教育研究棟 E260・他＆Zoom

副実行委員長　桾澤　碧（H ホーム　経済科学部２年）

2022 年度のダブルホームシンポジウムは、対面と Zoom を併用した形式で開催され、3 年ぶりの対面開催が実現したことからテーマを「Face to Face ~咲き誇れ DH(ダブルホーム)つながりの輪~」としました。このテーマには、シンポジウムの参加者が直接顔を合わせることで繋がりを強化し、この経験が今後のモチベーション開花に繋がってほしいという願いが込められています。

第 1 部「つどえ！進歩ジウム 座談会」では、外部ツール Slido を用いた意見交換を行い、第 2 部「つながれ！シンポジウム ホーム展」では、各ホームが地域の魅力を伝えられるような作品を展示しました。どちらも初の試みではありましたが、活発な意見交換や賑わっている様子が見られ、テーマに込められた願いは十分達成できたのではないかと感じています。

ダブルホームワークショップ・ミニ講演会 2022

参加者から地域活動への意欲向上に向けて外部専門家等との連携を望む声があり、ダブルホーム活動を通して必要と感じた学びを深めるダブルホームワークショップを前年度から継続しています。5 月のまち歩きワークショップに始まり、ファシリテーション、地域の魅力を伝える動画作成、地域の方への思いの伝え方、地域と「ともにつくる」プロジェクトのつくり方、リフレクション、広報戦略、などについて地域で活躍する専門家や卒業生から学びました。

まち歩きワークショップ

ファシリテーションの基礎を体験しよう！

第１回
5月8日（日）
12:40~16:20
まち歩きワークショップ
「地域の魅力の見つけ方」

参加者：21人
（学生17人、教員3人、地域P1人）
内容：3・4人で大学～内野周辺のまち歩きをし、得た知識と気づきの共有

第2回
5月23日（月）18:15~21:00
ファシリテーションの基礎を体験しよう！

角野仁美さん
みらいずworks

参加者：17人
（学生14人、教員2人、職員1人）
内容：3人インタビュー、4人チームでファシリテーションを実践

第3回
9月27日（水）13:00~15:00
地域の魅力を伝える動画作成

ミニ講演会①
ミニ講演会②

参加者：15人
（学生12人、教員３人）
内容：動画作成上の注意点
撮影工夫

第4回
11月10日（水）18:10~20:10
活動がもっと楽しくなる！地域の魅力の伝え方・届け方

井上有紀さん
にいがたイナカレッジ

参加者：15人
（学生12人、教員3人）
内容：地域の方への思いの伝え方
瓦版作成

第5回
12月5日（月）18:10~20:10
地域と「ともにつくる」プロジェクトをつくるには

西田卓司さん
余白デザイナー

参加者：13人
（学生12人、教員１人）
内容：場の作り方、イベント企画
ミーティングの進め方

第6回
1月27&30日12:00~12:45
地域活動のリフレクションについて皆で考える

参加者：18人
（学生18人）
内容：リフレクションの現状と今後

第7回
2月14日（火）13:30~15:00
突撃！噂の卒業生
卒業生になんでも聞いちゃおう！

北谷さん黒田さん
2019年度卒業生

参加者：6人
（学生5人、教員１人、職員1人）
内容：ダブルホームの意義や社会での役立ち

第8回
3月27日（月）
戦略P Rのプロに学ぶ！地域の魅力の見つけ方・伝え方

菅原豊さん
クロスボーダー株式会社

「地域の魅力の見つけ方」をテーマに大学周辺をまち歩きしました。当日は天気にも、また 20 名を超える多くの参加者にも恵まれ、とても充実したまち歩きワークショップを開催することができました。2 時間ほど大学周辺をまち歩きをした後、それぞれがまち歩きを通して発見したことや感じたことを写真を見せ合いながら共有しました。

A ホーム　blange

ホームの概要

メンバー構成：　1 年生 5 人、2 年生 8 人、3 年生 2 人、4 年生 3 人、教員 2 人、職員 2 人

活動地域：　新潟市西区大学南・内野地域

関連団体：　南心会（大学南ヶ丘）

ミーティング：　平日昼休み週 1 回程度（テスト期間無し）

南心会ミーティング月 1 回

成果物・制作物

1 年間の活動で作成した梅シロップ

地域の方と協力して作成したホームページ

うちのつながりプロジェクト

活動目的と概要

A ホームの活動は大学南・内野地区を拠点としています。五十嵐キャンパスに近いため、徒歩でアクセスでき、例年多くの活動が行われているため、地域の方々との交流が盛んでつながりが強いホームです。継続率が高く（やめる人が少ない）、メンバー間の関係作りも大切にしており、全員が主体的に活動できるような環境作りも心掛けています。地域の方々をはじめ多くの人と互いに協力し合って活動を行うことを大切にしています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の年次計画書に記載した地域活動の目標は　【地域の方との交流の機会を増やす。具体的には活動の中での交流のほか、毎月行われている南心会定例会へ学生が積極的に参加する。】と掲げていました。今年度は新たな取り組みとして、南心会・A ホーム合同のホームページ作成、卒業生による梅の植樹を行い、その他の活動にも学生は多く参加し、地域の方と交流が深まりました。ホームページについては今年度は作成で終わってしまったところが課題になりましたが、まず形として完成でき良かったです。定例会は南心会の皆さんとの交流や情報共有に有効でした。対面とオンラインのハイブリットで開催し、学生の参加人数は平均半分ほどでした。定例会は毎月第 2 土曜日 19 時に開催していますが、学生の参加人数を増やすために日時の再検討も考えられます。

【ホーム運営について】

今年度の年次計画書に記載したホーム運営の目標は【学生間での連携をしっかりとる。仕事が偏らないような役割分担や上級生から下級生への情報の引継ぎを確実に行うことで、スムーズな組織運営を目指し、かつ次年度以降の運営で困ることがないようにする。】と掲げていました。活動の種類が多い中で年度初めに 1 年生も含め役割分担をし、担当者を中心にそれぞれの活動を行うことができました。しかし、梅プロジェクト担当者は今年度新たな活動が加わったり、1 年通しての活動になるため少し負担が大きかったように感じます。活動の規模によって担当人数を考えるという課題があると思いました。情報の伝達、引継ぎに関しては、週一回のホームミーティングと LINE グループにより連携を取りながら上手く行うことができたと思います。しかし、次年度に向けたことを考えるとそれぞれの活動の情報を体系化し、いつでも見れるような資料などはフォーラムで共有するとさらにスムーズになると感じます。

活動を通して学んだこと

私は協力して物事を行うことの大切さを学ぶことができました。DH 報告会の準備など一人では大変なことも仲間の協力があって成功させることができた経験があるためそう感じます。今後も積極的に地域の方やホームメンバーと交流し、自身も成長できるような活動となるよう頑張りたいです。

土肥 七海都（経済学部 1 年）

直接会話することの大切さを学んだ一年間でした。地域活動やシンポジウムに参加し、沢山の人と話す機会があり、その都度いろんな会話、アイデアが生まれました。対面活動が今後増えていく中で、ホーム内外、地域の方と対話しながら、得たものを活動に活かしていきたいです。

渡辺 丈一郎（工学部 2 年）

今年は対面での活動が多くあり、地域の方との交流を活発に行うことができました。その中で、地域の方々の想いやこれまでの活動の歴史に触れることができ、より一層ダブルホームの意義を感じることができた一年になりました。

小林 鈴果（経済学部 3 年）

学生のやる気と一体感、地域の方々からの期待に圧倒され、後ろから応援する機会が多い一年間でした。学生と地域の方々の熱量が素敵なものをどんどん生み出していく空気感は忘れないと思います。「また一緒にやりたいですね！」という会話があることの有り難さを学びました。

工藤 絵瑠（創生学部 4 年）

今後に向けて

今年度の活動をふりかえってみて、活動に対し積極的に参加する学生が増えてきてメンバーの継続性も高まってきたと感じています。今後としては、一人一人が主体性を持って活動に参加できるようにすることを目標としたいです。来年度はコロナ禍も落ち着きつつあるため行事への参加、手伝いが復活する見込みの為、活動数が増えると考えられます。それに従って、学生間での連携がさらに必要になります。現状としては学年関係なく意見を出すことはできていますが、上級生に任せきりにしてしまう場面が見られています。また、来年度は大学南ヶ丘自治会のホームページの本格的な運用も始まります。そのため、ホームのスムーズな組織運営が求められてくると思います。そこで誰かに任せっきりにせず、各々が当事者意識をもって上級生から下級生への引き継ぎを確実に行う、一部の人に負担が集中しないように役割分担をしっかりと行うようにしていきます。今後も、ここまで築いてきた南心会をはじめとする地域の方との交流を大切にしていきたいと思います。そして、ホームのメンバー間の関係性も引き続き大切にしていき、新入生を迎える準備を整えていきます。

活動地域より

「ここは〇〇学部だよね」「わからない、通学できてないんです」梅収穫での会話です。驚くと同時にこれは何とかしなければと、胸が痛んだ。数か月過ぎた今、無念の 3 年間を今年は様々な町内行事を一緒に楽しみたい。ついてきてください。

新潟市西区大学南　南心会　遠藤 弘技 様

担当教職員より

今までの活動をそのまま引き継ぐだけではなく、内容をより良くしようとしていた姿が印象的でした。特に梅プロについては卒業生のための植樹の企画立案など、活動の幅がより深くなったと感じます。次年度は対面の活動がより増えると思いますので、一緒に頑張っていきましょう！

入試課　布施 尚大

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	大説明会
5 月	まちあるき
6 月	
7 月	梅プロジェクト（梅収穫・加工） 文理高校ワークショップ 地域実習報告会
8 月	
9 月	ホームページ公開
10 月	
11 月	梅の瓶詰め
12 月	ダブルホームシンポジウム 新大ランド
1 月	
2 月	梅の植樹
3 月	

7 月 13 日
1 年生による文理高校でのワークショップ

11 月 12 日
梅シロップ瓶詰め

B ホーム　いろはの風

ホームの概要

メンバー構成：　1 年生 6 人、2 年生 9 人、3 年生 5 人、4 年生 2 人、修士以上 1 人、教員 3 人、

活動地域：　新潟市西蒲区松野尾地区

関連団体：　松野尾地域コミュニティ協議会

ミーティング：　平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物

学生で準備したクリスマスツリーに飾り付けをしてもらいました。
（12 月 17 日　クリスマス会）

シンポジウムのホーム展では、これまでの活動写真の掲示や実際に地域で行ってきた企画を体験してもらうコーナーをつくり、参加者の皆さんに体験してもらいました。
（12 月 17 日　ダブルホームシンポジウム）

松野尾との絆をつなぐ with コロナ

活動目的と概要

私たち B ホームは新潟市西蒲区松野尾地区で、主に子どもたち向けの事業の一部を企画・運営させていただいています。地域の方々のおもいを汲み取りながら、また、学生のアイデアや企画にも賛同いただきながら活動に取り組み、コロナ禍でも地域と学生・教職員との絆をつなぐことを目的としています。今年度はミニ運動会の企画・運営をさせていただきました。活動の際には、企画から学年関係なく活発に意見交換を行い、運営もそれぞれが責任を持ちながら協力し、行っています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の地域活動の目標には、「コロナ禍でも工夫しながら活動を行い、地域の方々との交流を保ち続けること」「地域の実情を踏まえたうえで、これまでの活動で行わなかった多世代の交流を主眼とした創造的な活動を行うこと」の 2 つを掲げました。

1 つ目については、感染症対策を講じたうえで、現地活動を 5 回行うことができました。とりわけ、ミニ運動会やクリスマス会、豆まき会は大勢の子どもたちが参加して盛り上がりを見せました。

2 つ目については、多世代の交流の場としてミニ運動会を位置づけていましたが、子どもたち向けの活動を主として行う従来の B ホームの在り方に終始し、目標を達成できませんでした。企画の構築や地域の方々との連携などの面で課題が残る結果となりました。

これまで B ホームの活動に関わりを持つことがなかった方々にも活動を知ってもらうために、今後は今年度の反省をもとに子どもたち以外とも交流する機会を作る必要があります。

【ホーム運営について】

今年度のホーム運営の目標には、「ホーム内での交流を深める」「学生が主体的に活動できる仕組みづくりを行う」「地域と学生の『やりたい』を形にする」の 3 つを掲げました。

1 つ目については、新入生の加入後からホームミーティングを増やし、適宜アイスブレイクを取り入れるなどして、交流の促進を図りました。

2 つ目については、以前から導入していた、各学年混合の活動別縦割り班を継続し、上級生のリーダーシップのもと、下級生を中心に主体的に活動できる環境づくりに努めました。

3 つ目については、年次計画の作成前に学生から地域で行いたいことを調査し、地域の方々のご意向も踏まえたうえで、年次計画の作成に活用しました。

しかし、学生の現地活動への参加率は非常に高いものの、ホームミーティングに参加する学生が固定化する傾向がありました。多くの学生の関心や意欲を活かせる環境を再考する必要があります。

活動を通して学んだこと

私はＢホームの活動を通じて、相手の立場に立って物事を計画・実行することの重要さを学びました。企画の際、子どもたちが参加して楽しいと感じるイベントを考えるのに苦戦しましたが、実際に地域を訪問し、楽しそうに活動に参加している子どもたちの姿を見て達成感を感じました。

長谷川 葵（法学部１年）

私は地域から求められている学生の役割はどのようなことなのか、より意識して活動することの大切さを学びました。活動の企画・運営などの際に地域の方々と学生が協力して取り組み、地域からのニーズや現状を把握したうえで、新しいアイデアなどを活動に盛り込むことができました。

頓所 拓矢（経済科学部３年）

私はもともと地域活性化に興味を持ち、ダブルホーム活動に参加しました。そこで、今年度Ｂホームの活動では、地域の方々と子どもたちが参加する活動がたくさんあり、大学生側も関わらせてもらうことで地域活性化に向けて貢献できたと思います。

平野 杏（経済科学部２年）

今年度は後輩の皆さんの頑張りを見守る１年でした。活動に対して真面目で一生懸命な姿を見て、相手の立場に立って物事を考える大切さを改めて感じました。また私自身、Ｂホームのおかげで最後まで楽しませていただきました。そしてこれまでの経験をこれからに活かせたらと思います。

坂田 功星（経済学部４年）

今後に向けて

今後に向けては、今年度と同様に、季節ごとのイベントでの企画・運営を中心に活動を展開し、地域の方々との交流を深めながら松野尾地域に貢献していきたいと考えています。Ｂホームは 1,2 年生が多く、アイデアや活気に溢れた魅力あるホームであるため、その良さをいかしながら地域にもそのエネルギーを広げていきたいです。

さらなる地域の活性化のために、来年度は活動の対象を子どもたちだけでなく、小さな子からご高齢の方々まで全世代の方々に拡大し、地域の方々が幅広く楽しめるようなイベントを企画していきたいです。具体的には、今年度行ったミニ運動会で、より多くの世代の方々が一緒に参加できるような競技を考案することで盛り上げていきたいと考えています。

その他にも、イベントごとに「いろはの風だより」を発行し、イベントごとにその様子や成果を地域の回覧板などで共有することで、松野尾地域の方々にもっと Ｂ ホームの活動やおもいを知っていただけるようにしていきたいです。

来年度も、地域の方々との連携、ホーム内でのやり取りをより一層深めながら、松野尾地域をさらに盛り上げていけるようにホーム活動を展開していきたいと思います。

活動地域より

初めてゼロからの企画イベントが実現しましたね！それも大盛況で子どもたちは何回も何回も障害物レースに挑んでいました。何となくだけど壁を越えた感があり充実した１年でした。来期は全開です！子どもから大人たちまで一同待っています。

松野尾地域コミュニティ協議会 事務局長　堀 秀俊 様

担当教職員より

地域の方々のご厚意によって、松野尾での活動・交流の場を多く持つことができました。学生１人１人が自分の役割を理解して積極的に行動していた様子が印象に残っています。これからもホームのみんなで協力して、地域の方々との絆を深めていきましょう。

教育基盤機構　吉田 章人

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	大説明会
5 月	
6 月	田舟乗船体験会
7 月	まちあるき
	地域実習報告会
8 月	
9 月	
10 月	ミニ運動会
11 月	
12 月	クリスマス会
	ダブルホームシンポジウム
1 月	豆まき会
2 月	
3 月	卒業を祝う会（Zoom）

6 月 4 日　田舟乗船体験会

10 月 15 日　ミニ運動会

D ホーム　さんせっと

ホームの概要

メンバー構成：1年生5人、2年生7人、3年生2人、4年生4人、教員3人、職員2人

活動地域：新発田市板山地区

関連団体：夢づくりいたやま

ミーティング：平日昼休み週1回程度

試験期間中はお休み

成果物・制作物

秋の板山写真コンテスト
メンバーと地域の方から秋の板山の写真を募集し、コンテストを行いました。

シンポジウム展示物
今年度のシンポジウムでは、ヒメサユリの培養物、活動写真の展示、板山のお米販売をしました。

板山の方との交流、そして魅力の発信

活動目的と概要

D ホームは新発田市の板山地区で活動しています。今年度は、「板山の方と積極的に交流し、発見した板山の魅力をホーム外にも発信していくこと。学生が主体となり企画運営する行事を行うこと。」を目標に活動しました。例年の活動は、春に顔合わせ会、田植え、夢まつり、村歩きがあり、夏にはキッズサマースクール、秋は稲刈りと収穫祭、冬にほやほやがあります。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の地域活動は、「ヒメサユリの培養・定植及び復元活動の見直しをする。積極的な情報発信をする。歴史を調査し、瓦版や地元すごろく、お宝マップを作成することで板山の魅力を共有する。固定行事以外での交流の幅を広げる。」という目標で活動しました。ヒメサユリの講和会や活動方針についてのお話会を通して、板山の方々とヒメサユリの歩みや思いを知ることが出来ました。そして、次年度からヒメサユリとの関わり方を培養から情報発信にシフトすることになりました。また、今年度はオトナ・サマースクールや秋の板山写真コンテストなど、学生主体の活動をすることが出来ました。これらの活動では、D ホームと地域の方との情報交換不足や写真コンテストの周知、チラシの誤字などが反省点となりました。今後このようなことがないよう、地域の方との連絡はもちろん、D ホーム間でダブルチェックを行うなど活動の準備を入念に行いたいと思います。また、瓦版やポスター、お宝マップなど板山の魅力をまとめた物も作っていきたいです。

【ホーム運営について】

今年度のホーム運営は、「ヒメサユリの活動を農学部生だけでなく、ホームメンバー全体で協力して行う。学生が参加し続けたくなるような活動内容を考案・雰囲気づくりをする。」という目標で活動しました。ヒメサユリの活動について、これまでは農学部生が中心となって培養してきましたが、地域の方との話し合いの結果、次年度から情報発信に力を入れ、ヒメサユリや板山の魅力を伝えるという方針になりました。ホーム運営に関して、今年度は主に対面でのミーティングを行いました。相手の反応が直接分かるため、話し合いがスムーズになりました。昨年度の課題であった役割分担について、企画ごとにチームを作って進捗状況を報告し合う、学年関係なく役割を振るなどの工夫を行いました。その結果、役割が偏ることなく公平に活動しやすくなりました。また、ホームの雰囲気作りについて、ミーティング前のアイスブレイクやミーティング後の雑談、あだ名で呼び合うなどを通してメンバー間の親睦が深まりました。その結果、発言や相談がしやすくなり、より居心地の良いホームになったと感じます。今年度の課題として、情報共有の遅れが目立ちました。次年度はダブルホームのメールや地域の方からの情報をミーティング時に確認するようにします。

活動を通して学んだこと

1 年間地域の方々と交流する中で、地域の温かさや地域を盛り上げたいという想いを直接感じることができました。また、学生と地域間で考えや思いを直接共有することの大切さを学びました。来年度は、学生ならではの視点を活かした活動で地域に貢献できるようにしたいです。

小見 くるみ（創生学部 1 年）

一年間のダブルホーム活動を通して地域課題に主体的に取り組むようになったと思います。実際に足を運び地域の人々と交流できたことは、感染症の制限下ではできなかったことなのでとても新鮮でした。次年度は元の生活に戻りつつあるので対面での活動に積極的に参加したいです。

茂木 諒太（法学部 1 年）

ミーティング報告や活動の振り返りをメンバーだけでなく、地域の方とも共有することでより親睦を深めることが出来、情報共有もスムーズになったと感じます。今後も情報共有、振り返りを怠らずに次の活動につなげ、成長していきたいです。

中村 菜乃葉（人文学部 2 年）

地域の方々の優しさに触れ、板山について知るとともに交流を通して楽しく活動することができました。またミーティングも対面が増え、活動についてホームのメンバーと話し合いをしながら進めることができたと思います。地域との繋がりを大切にして今後も様々な取り組みに挑戦していきたいです。

山森 朱莉（法学部 1 年）

今後に向けて

今年度はシンポジウムや地域の方との交流を通して、D ホームの課題や方向性を考えることが出来ました。地域活動では、学生同士のみの交流にならないように、地域の方とも積極的にコミュニケーションを取っていきたいです。また、活動の目的確認や振り返りをしっかり行い、メンバー間はもちろん地域の方とも共有してより有意義な活動にしたいです。シンポジウムのホーム展示では他のホームがどのような活動をしているのか、どのように魅力を発信しているのかを知ることが出来ました。地域のおすすめスポットマップや郷土料理のレシピ冊子、地域の名所かるたなどは、地域の魅力を発見・発信していく参考になりました。D ホームでも地域の名所マップ作りに挑戦し、さらなる魅力の発見・発信につなげていきたいです。そして次年度の活動では、SNS での魅力発信や夢まつりでの出店、ゆるキャラ作成など様々なことにチャレンジし、学生がより主体的に楽しく活動できるようにしたいです。

活動地域より

D ホームの活動が毎年少しずつ、より実践的なものになってきていると感じています。これも学生の皆様が日々考え、活動に対して真剣に取り組んでいる結果だと思います。板山で感じる地域や世代間の感覚の違いは、現代を生きる学生とは離れており苦労することも多いかとは思いますが、これも大事な経験です。これからも一緒に楽しく学びのある活動にしていきましょう！

上田 幹久 様

担当教職員より

D ホーム員という立場やダブルホーム活動の本質を理解して、どのように活動すればホームが継続的に発展していくのかを考察して記録を残すことは必要不可欠な作業です。諸先輩方が残した活動報告の活用がホーム発展への近道になると思います。次代を担う未来のホーム員のために、充実した報告書となるよう期待しています。

教務課　宇田 稔樹

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	ヒメサユリ講和会、村歩き大説明会
5 月	公園整備、タケノコ堀り
6 月	村歩き（新加入生実習）
7 月	オトナ・サマースクール 地域実習報告会
8 月	
9 月	
10 月	稲刈り
11 月	
12 月	ダブルホームシンポジウム
1 月	活動方針についてのお話会
2 月	
3 月	卒業式

7 月 16 日　オトナ・サマースクール

12 月 17 日　シンポジウム

E ホーム　アース・アース　燃えよ赤塚魂、輝け佐潟愛

ホームの概要

メンバー構成：　1 年生 4 人、2 年生 4 人、3 年生 8 人、4 年生 4 人、修士以上 1 人、教員 3 人、職員 1 人

活動地域：　新潟市西区赤塚地区

関連団体：　佐潟と歩む赤塚の会

ミーティング：　平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物

佐潟の灯籠

シンポジウムブース

活動目的と概要

E ホームが活動する新潟市西区赤塚地区は、白鳥やラムサール条約に指定されている湿地がある自然が豊かな地域です。ここで、私たちは「佐潟と歩む赤塚の会」の皆さんをはじめとする地域の方々との交流や佐潟の魅力発見を目的に活動をしています。地域訪問では行事への参加、佐潟の自然保護のお手伝いをし、日々のミーティングではホームメンバー同士の交流や話し合いを通じて新たな活動を考えあったり、レクリエーションをしたりして交流を深めています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

地域活動に関して、今年度の活動目標に掲げた、「主体的な関わり」はうまくいったと感じました。去年までは行わなかったことを積極的に行い、地域活動の幅を広げました。年度が始まってから、既存のメンバーに改めてこのホームを希望した理由を確認し、実現可能性についても話し合いました。新加入生は活動地域に魅力を感じて選択してくれましたが、初めはよく活動地域のことを知らなかったと思います。しかし、活動を続けていく中で自発的にやりたいことを言ってくれる人も増え、集めた希望をもとに地域の方と連携を取り、活動を行なえたと思います。

一方で、その他目標の「目標と活動報告の共有」と「日常活動の報告」に関しては地域の方々とあまり共有をすることができませんでした。地域の方と会う機会は多かったですがその話題について触れることが少なかったので、次年度は日々の活動についても積極的に報告し、意見をいただいて、よりよい活動につなげていきたいです。

【ホーム運営について】

今年度のホームの組織運営については、「やってみたいことの共有」に関しては満足のいく成果を出すことができたと思います。今年度はホーム内で意見を言いやすい空間づくり・学年問わず仲良くなれるようにすることを大事にして活動を行うようにし、メンバーのやってみたいことを言い出しやすい雰囲気を作ることができたと思います。それをもとに、メンバー間でやってみたいことをミーティングで共有し、新たな活動の指針とすることでモチベーションの維持にもつながったのではないかと思います。実際、去年とは異なり新加入生が夏休みを境にミーティングにあまり来なくなる、といったことが解消され、非常に協力して活動を行うことができました。

しかし、「活動状況の見える化」についてはミーティング報告自体を忘れてしまうこともあったため、担当者以外の人も提出に関する意識を持ち、互いに声掛けをしっかりしていくことで再発防止につなげようと思います。

活動を通して学んだこと

私は、様々な立場の人々と交流することの大切さを学びました。世代の異なる地域の方々と関わり、自分には無かった価値観を知ることができました。また、シンポジウムではホーム内で互いの長所を活かしながら取り組むことができ、協力することの重要性を改めて実感しました。

安孫子 瑠菜（人文学部 1 年）

今年度のダブルホーム活動を通して、ハーブ園訪問など新たな活動を取り入れたことで、まだまだ自分たちがこの活動を盛り上げていくことができると分かり、大学生と地域のかかわり方についての新たな方向性を学ぶことができました。次年度も楽しく活動していきたいです。

中村 隆人（人文学部 2 年）

今年は 3 年間ダブルホーム活動をやってきて初めて対面でシンポジウムがあり、E ホームでは蓮フラワー作りや紙漉き体験に加え、新たにハーブに注目し企画をつくることが出来ました。自ら価値を見出し、形にできた経験ができ、来年への足がかりにすることができたと思いました。

福島 彩友美（経済科学部 3 年）

地域活動では、地域の皆さんと活動していくうちに名前を覚えてもらったことがとても嬉しかったです。ホーム活動では、ある目標に向けてメンバーと試行錯誤した時間が楽しかったです。これからも佐潟の郷土料理を喰らいながらみんなと親睦を深めていきたいです。

水田 真人 （工学部 2 年）

今後に向けて

今年度の活動に関して、対面での活動が昨年より緩和されたことでより多くの活動の場・活動時間を作ることができ、充実したダブルホーム活動を行うことができました。また、今年からはダブルホームシンポジウムも対面で行ない、ブース出展も行ったことで、活動地域の方々からではなく自分たちから主体的に活動を行うことができたことも非常に良かったと考えています。シンポジウム一カ月前あたりからは毎週対面で活動を行い、多い日には週 2～3 回行うときもあり、学年問わず仲を深め協力し合えたと思います。E ホームは今年の新加入生があまり多いとは言えない状態でしたが、準備や当日作業を含め非常に積極的に新加入生も協力をしてくれたことで結果的により良いブースを開くことができました。そこで次年度は、今回の良かったところを引き続き行い、シンポジウムを通して出た、新たなやりたいこと・できそうなことに挑戦してさらなる活動の幅を広げていきたいと思います。そして、シンポジウムに来てくださった活動地域の方々にも様々なアドバイスをいただいたので、それを活かしていけるようにもしたいです。

活動地域より

新型コロナウイルスは 5 月に季節性インフルエンザなどと同じ「5 類」に移行予定で、行動制限などがなくなります。あらためてダブルホーム活動も再始動です。少子高齢化で地域の課題解決には次世代を担う若者が貴重な人財となっています。社会、地域で活躍を期待します。

佐潟と歩む赤塚の会（新潟市西区） 涌井 晴之 様

担当教職員より

ザリガニ釣りを企画したり、佐潟のハーブに着目した活動を実施したりと、これまでにない自分たちだけの E ホームを作り上げる、その始まりの年になったと思います。今後のホーム活動がどんなに独創的なものになっていくのか、私自身楽しみで仕方ありません。

財務部財務企画課 西 洋平

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	大説明会
5 月	
6 月	新加入生地域訪問
7 月	地域実習報告会　灯籠組み立て
8 月	佐潟まつり
9 月	
10 月	
11 月	ハスフラワー作り　ハーブ園訪問
12 月	ダブルホームシンポジウム
1 月	
2 月	
3 月	春の潟普請

7 月 30 日　灯籠作り

11 月 26 日　ハーブ園訪問

F ホーム　Natural

ホームの概要

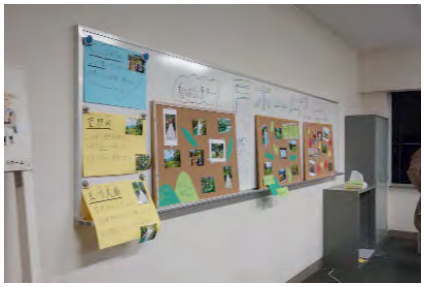
メンバー構成：　1 年生 5 人、2 年生 5 人、3 年生 5 人、4 年生 3 人、教員 2 人、職員 1 人

活動地域：　山形県小国町玉川地区

関連団体：　小国町振興会

ミーティング：　平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



シンポジウムでの展示
コルクボードに写真や説明を貼り付けポップに展示しました。1 年生が積極的に作ってくれました。

シンポジウムでの顔はめパネル
F ホームのシンポジウムでの目玉です。発泡スチロールで制作し、多くの人の目に留まりました。

玉川と共に進化する F ホーム

活動目的と概要

我々 F ホームは山形県小国町玉川地区で活動を行っています。玉川地区では、田植えや地域散策、雪堀、グランドゴルフなどの活動を初めとして今年度は廃校見学や J ホームの人との交流などを行いました。コロナ禍により今まで規制されていた地域の方との食事会の復活など昨年度に比べて活動の自由度もだいぶ復活しました。これからは例年の活動に加えて新たなプロジェクトなどを計画し、より楽しくそしてより深い地域との交流をしていけるように努めます。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度は「玉川との連携を正確かつ密度の濃いものにし、多くの玉川の方々と交流できるような地域活動を展開し続ける」という目標を立てて地域活動、地域の方との連携に努めてまいりました。そのため連絡係と地域の方との連絡はこまめにそしてより早い段階での地域活動に関する打ち合わせを行いました。多くの玉川の方々と交流するという点に関しては昨年は中止となってしまっていた例年の活動のグランドゴルフ大会にてたくさんの地域の方々と一緒にスポーツに勤しむことができました。その他にも地域の方との懇親会などを行い活動後やゴルフの後に軽い食事会を行い、より良い交流をすることができました。しかし、今年度はやはりコロナ禍の影響もあり、大々的に地域の方々と交流できる機会は前述のグランドゴルフなどに限定されてしまったので来年度はコロナ禍の影響も薄くなる事が予想されるため、より濃密な地域の方との交流を実現していけるように頑張りたいです。

【ホーム運営について】

今年度は「新入生を迎えた F ホームの各メンバーの活動参加率・継続率を向上する」という目標を立ててホーム運営に務めてまいりました。達成に向けて地域活動を行う際は例年の活動にとらわれず、特に新しく F ホームに入った 1 年生に対して F ホームでどのような活動がしたいのか、どのような事を活動を通して学びたいのかについて意見を聞き、それを反映させより充実した活動作りに努めました。そのほかにも例年の活動であってもそれと一緒に今までの活動では訪れることがなかった場所の散策や地域の方との交流の企画を挟むなどの工夫をし、より充実した活動になるよう工夫しました。それの成果か 1 年生のミーティング、地域活動の参加率は去年と比べてもかなり高い水準を叩き出すことが出来ました。新入生へのアプローチはこのように続けつつ、来年度は上級生の継続率・参加率を上げれるよう頑張りたいです。

活動を通して学んだこと

地方の現状を知ることができたのが最大の学びです。世間では地方は高齢化や過疎化が進んでいるといわれマイナスのイメージが強いですが、玉川地区は住民同士が協力して除雪をしたりグランドゴルフを楽しんだりと活発な地域です。地方の今を正しく知ることができ良かったです。

高村 健太郎（経済科学部１年）

今年の活動ではコロナ対策の緩和に伴って、より多様な取り組みを進めることが出来たと思います。特に対面での懇親会は地域の人との親睦を深める上で、非常に役立ったのではないでしょうか。玉川地区及び小国町には酒造や食文化などまだまだ切り込める要素が多くあると思いますので、これからも魅力の発信に寄与できるよう頑張りたいです。

海野 夏輝（人文学部２年）

残念ながら今年度は玉川を訪れることはできませんでしたが、前期はホーム長として仕事をメンバーに割り振ることを重点的に意識しました。また、1 年生も新しく入るということで、居心地のいいミーティングづくりを心がけました。

神谷 篤大（農学部３年）

今年度はＦホームにとって大切な方が亡くなられるなど、大きな出来事のあった年でした。そうした中で、改めて、活動を支えてくださっている地域の方々のありがたみを学びました。今後は地域の皆さんからいただいたご恩を私の方から返していけるよう、精一杯頑張りたいと思います。

小林 さくら（教育学部４年）

今後に向けて

今年度の活動では同じ小国町で活動していたＪホームと接近を図り、協力関係を構築し、合同での地域訪問等を行い、最終的にＪホームと融合することで今後の活動の幅を更に広げることができたのではないかと考えます。その一方でホームの運営が疎かになってしまった点もありますので、今後は大きくなったＦホーム自体をしっかりとまとめ、地域の方々と幅広く協力しながら関わる方々全員にとって良き思い出となるような活動をしていきたいと考えています。

そのために、今後のＦホームでは今年度のＪホームとの協力体制によって得られたノウハウ、玉川、樽口両地域の廃校や豊かな自然など豊富な活動の資源となり得るものを活かしていきます。更に多くのホームの学生と小国町の方と共に、ダブルホーム 18 ホームの先駆けとなり、他のホームにまで良い影響を与え、ダブルホーム全体を活性化できるような斬新で充実した活動を行うよう努めていく所存です。

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	大説明会
5 月	
6 月	
7 月	萱野峠探索 地域実習報告会
8 月	
9 月	
10 月	グランドゴルフ
11 月	
12 月	Ｊホームと合同地域訪問 ダブルホームシンポジウム
1 月	
2 月	雪掘り、樽口訪問
3 月	

7 月 3 日　看板設置

活動地域より

学生の皆さんには、玉川での活動を通して色々な事を経験し、考え、学び、楽しかったと言える大学生活になるよう、願っています。玉川は高齢者が多く、色々な話を聞き出すことで沢山学びとる事があると思います。皆さんの、玉川に対するあたたかい思いやりに感謝しています。

小国町玉川　渡辺 幸弘 様

担当教職員より

今年度、Ｆホームはふたつの節目を迎えました。ひとつは、これまで地域活動を支えて下さった地元の方が亡くなられたこと、もうひとつは、同じ地域で活動してきたホームが発展的解散をしたことです。天高くすっくと育つ竹は節目が支えています。Ｆホームも節目を大切に成長してくれるでしょう。

農学部　箕口 秀夫

2 月 5 日　雪掘り

G ホーム　暖

ホームの概要

メンバー構成：1 年生 5 人、2 年生 6 人、3 年生 9 人、4 年生 6 人、修士以上 1 人、教員 3 人、職員 1 人

活動地域：阿賀町豊実・日出谷地区

関連団体：わげしょの会

ミーティング：平日昼休み週 1 回対面ミーティング、試験期間中はお休み

成果物・制作物

キャンドルナイト
プラカップに絵を描きました。
中に水を入れてキャンドルを浮かべると
幻想的でした。

フォトアルバム
阿賀町の自然、地域訪問の様子、
学生の普段の活動の様子などを
一冊にまとめました。

豊実・日出谷とより密接な関係の構築

活動目的と概要

私たちの活動地域である阿賀町豊実・日出谷地区は、自然がとても美しく、そこに暮らす人々は自然と向き合いながら生活しています。一方で、少子化が深刻な状況であるという問題も抱えている地域です。G ホームでは、わげしょの会を中心とした地域の方々との交流により、地域の魅力や私たちにできることを見つけるという目的で活動しています。今年度は 2 度の地域訪問を通して豊実の農作物や暮らしの一部に触れ、その魅力を改めて実感しました。

活動目標の達成状況

2022 年度の目標について、地域活動においては「地域とのより密接な関係性の構築のための交流頻度を増やす」ということを、ホーム運営については「ホームミーティングの参加率向上および、活動を計画で終わらせずに形にする」ということを据えていました。

【地域活動について】

結論として、「前年度と比較すると確かに交流回数自体を増やすことができたと評価できるが、まだ足りないように思う。」というのが正直な所感であります。前年度は一度きりに留まった地域訪問も今年度は春秋の二度実施できたことや、キャンドルナイトの日に学生が貢献できることについてのアイデアを地域の方に共有、フィードバックをいただきながらコミュニケーションできたことなどは評価できます。しかし、他ホームの地域活動の頻度と比べるとその数はまだ足りないように思うほか、地域行事への参画も、実際に貢献の形にできたことは自分たちで考えたことのごく一部のみだったことなど、改善の余地を残していたように思います。

【ホーム運営について】

結論としては、「ミーティングへの参加率向上、計画を形にすること、ともに及第点と評価できる程には達成できたように感じる」というところです。まず、ミーティングへの参加率向上については、「月間のミーティング実施予定を鑑みながら、各回のミーティングのゴールを明確に設定して計画的に議論を進められたこと」「各種イベント、活動準備において、“役割分担”を行い、各メンバーに役を振ったことによる活動へのコミットメントの向上」を図ることができたことが効果的であったように思います。また、「活動を形にする」という点においても、「実施する」という意思決定を適宜明確に下すことができたと振り返ります。ただ、前者の目標については、参加率を具体的な数値として把握するまでには至れなかったことや、ホームとの関わりが極端に減る 3 年生以上のメンバーの関わり方をどう考えるかなどが、後者については、地域の人とのコミュニケーションおよび意思決定（特に、地域行事への参画をあまり形にできなかった）などが今後の課題として考えられます。

活動を通して学んだこと

1 年間の活動を通して、私は人とのつながりの大切さを感じました。わげしょの会の皆さんと協力して一つのことをやり遂げる経験から、大きな達成感を感じることができました。誰かと一緒に活動すると、ひとりでは味わえない喜びがあるということを学びました。

轟 渚七（人文学部 1 年）

地域の活性化のためにできることを地域の方の立場に立って考える大切さを学びました。積極的に地域の方とお話しすることでその地域ならではの魅力や課題がわかり、普段の大学生活では思いつかない視点を持って活動することができました。

渡邉 歩夢（工学部 3 年）

活動を形にすることの難しさ。人と協働のためには客観的な計画が必要で、それを形にするには、適当な役割分担と進捗管理が必要です。それらのためには綿密なコミュニケーションが不可欠です。それら一連の過程をこぼさずに体現しきる難しさを学びました。

櫻井 隆樹（経済学部 2 年）

2 年生が中心となって多くの話し合いを重ね、with コロナの新しい活動の土台を築いてくれました。チームの仲も良く、意見を活発に出し合っている様子を見ていて、チャレンジングで雰囲気の良い「G ホームらしさ」をより感じられた一年になりました。

平松 紗也加（経済学部 4 年）

今後に向けて

今年度の G ホームの活動では学生同士の連携力や親密度が深まった 1 年だったと思います。ミーティングでの話し合いやシンポジウムの準備段階の際では多くの学生がやる気を持って活動してきたおかげで和気あいあいとした雰囲気の中で活動を行うことができていたと思います。

これらの経験を踏まえ今後の活動では地域の方との親交をさらに深められるような活動をしていきたいと考えています。今年度は地域活動に行けた回数が少なく、自分たちの活動する地域の魅力を理解するという点では、まだまだ足りないところが多くあるのではないかと感じました。そのため来年度からは地域活動に赴く頻度を増やせるよう企画を考えていきたいと思います。また、ただ活動の頻度を増やすだけでなく、そこに行って何をするのか、大学生と地域の方とで行える地域創生とはどんなことなのかを G ホーム全体で深く考えていく必要があると考えています。

以上のことから、今後の活動では大学生と地域の方とで行える地域創生について深く考えていくことと、地域活動の頻度を増やしより地域の方と親密な関係を築いていくことを目標に活動していきたいと考えています。

活動地域より

今年度も活動お疲れ様でした。お互い新型コロナの様子を見ながら交流をしてきたわけですが、少しずつ交流可能なタイミング・内容が分かってきて向き合うことが部分的にできました。来年度からは、更に楽しい活動ができることを楽しみにしています。学生生活楽しんでください！

わげしょの会　佐藤 高博 様

担当教職員より

地域活動は伝統や慣習と新しいことの融合によって進歩があると思います。時代の流れが凄まじく速く、ぼんやりしていると取り残されそうですが、上辺や目先のことに惑わされず、着実に進めていきたいですね. G ホームはまじめに楽しく取り組む集団です。盛り上がっていきましょう！

工学部　飯島 淳彦

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	大説明会
5 月	新入生加入
6 月	地域訪問（草刈り・笹取り）
7 月	ホームメンバープロフィール作り 地域実習報告会
8 月	
9 月	学生版キャンドルナイト
10 月	地域訪問（キャンドルナイト）
11 月	
12 月	ダブルホームシンポジウム 今年の振り返り、次期代表決め
1 月	今年度の振り返り、引継ぎ
2 月	
3 月	

6 月 27 日　草刈り・笹取り

10 月 9 日　キャンドルナイト

ホーム　ほたる

ホームの概要

メンバー構成：1 年生 6 人、2 年生 5 人、3 年生 4 人、4 年生 7 人、修士以上 1 人、教員 2 人、職員 1 人

活動地域：新潟市西区内野町

関連団体：内野まちづくり協議会、内野まちづくりセンター、西地区公民館

ミーティング：平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物

内野町美化プロジェクトで
再生させたプランター

新川周辺のゴミ拾いで一つ残らず回収

Uchi knowing~内野ともっと交流を~

活動目的と概要

H ホームの活動地域は、大学の近くである新潟市西区内野町です。「まち歩き」をはじめ、「新川ほたる」や「新大ランド」など地域の方と共に活動させていただいています。私たちの活動目的は、「活動を通じて、内野と H ホームのことを知ってもらう」です。地域の方との活動を通して、地域の方や大学生に内野地域の魅力を再発見していただけるよう活動しています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

私たちは活動地域に対して、今年度、「H ホームのことを知ってもらう活動や、新しい活動を行うためにも、まず学生が内野について知る」ということを目標に活動を行ってきました。

5 月中は、内野小学校の生徒と内野駅前にあるプランターを作り、交流を深めることができました。また、8 月頃には、日本文理高校の生徒を対象にまち歩きを開催し、高校生に内野地域の魅力を伝えることができました。今年度の地域の人との対談・ミーティングでは、昨年度、開催を終了してしまった「新川ほたる」を復活させたいという意見や、ゴミが落ちていたのでゴミ拾いを開催したいという意見が出ました。新川ほたるはまだ未実行段階ですがゴミ拾いなど、小さなことから町を発展していきたいと思いました。来年度は、「地域の人との関係の発展」を目標に活動をしていき、学生主体の活動を中心に多くの地域の方とのつながりを深めていきたいです。

【ホーム運営について】

今年度の地域活動の目標は、①新たな活動の企画を行うため、内野や内野の方々との触れ合いを通して、改めて内野で学生視点から「できること」を見つめ直す、②地域の方との関係性を深め、より地域の声を身近にリサーチできる環境を生み出す、の 2 つを掲げました。町歩きの頻度を増やし、内野の魅力・課題を知り、シンポジウムでの物販やプランターの再生、ごみ拾いなどに活かすことができました。一方、学生間や地域へ行く機会は増えましたが、地域の方との交流が少ないことが次年度の課題です。

ホーム内の運営に関しては、①対面ミーティングやオンライン交流会を増加させ、更に関係性を深める、②ミーティングの雰囲気作りの徹底、の 2 つを掲げました。ミーティングを基本対面で実施することができました。またメンバー間での交流回数や、内野に行く回数が増えたので良かったです。一方課題は、ホーム内メンバーのミーティング出席率です。出席率が低いと話し合いができず決定が遅れ、またタスクの分配も難しいです。参加したいと思えるような雰囲気づくりが引き続き次年度の課題となりそうです。

活動を通して学んだこと

自分の意見を持つことの大切さを学ぶことができました。ミーティングや地域の人との対談で自分で意見を出してみて、それが肯定されると嬉しくて、自信へつなげることが出来ました。また、今後の活動や交流の中で内野の魅力をもっと知って、発信していきたいと思いました。

鳥丸 政晃（経済科学部 1 年）

子供たちが楽しんでいる姿を見ると、とても達成感がありました。当日はトラブルもあり、臨機応変に対応する力や企画を運営する上で必要となる計画性や伝える力の大切さを身に染みて学びました。A と H ホームが合同で行ったこの経験を今後の活動の発展に繋げていきたいと思います。

中田 早耶（農学部 3 年）

各活動においてコミュニティ協議会の方をはじめたくさんの地域の方と交流することができ、繋がりのもとにある相手の思いを知ることの大切さを学びました。なぜ共に活動するのか、私たちに期待していることは何かなどを直接お聞きして今後の活動でその思いにしっかり応えていきたいと改めて思いました。

太田 望美（人文学部 2 年）

私は 12 月の活動で、後輩たちにひさしぶりに会いました。訪れた人に対して丁寧に接しており、またトラブルにも臨機応変に対応する姿を見て、とても嬉しくなりました。今後のさらなる活躍、期待しています！

荒木 雅幸（大学院 1 年）

今後に向けて

シンポジウムでの話し合いでは特に、実際に活動を起こしてみることの重要性や新たな活動方法の発見をすることができました。今年度のまち歩きでは内野地域の歴史について学ぶことができ、活動地域についてどのような問題があり、どのような魅力があるのかを発見したり、地域の人の温かさを実感することができました。シンポジウムで学んだことを基に活動し、新たな経験を積むことができたことで、H ホームの発展につながったと感じます。

今年度は、まち歩きや、地域の人との対談で、今までどのような活動が行われてきたのかを話し合うことができたので、今後は、シンポジウムでの学びや地域の方との交流を通して、学生主体の活動を活発に行い、H ホームとして内野地域へ貢献できるような活動を行っていきたいです。

活動地域より

昨年は、内野町美化プロジェクトに参加いただき有り難う御座いました。今後私たちの活動も地域の要望に答えて行けるよう努力を重ね、ダブルホーム、H ホームの皆様とも、今まで以上に交流や活動が出来るよう、話し合いの機会を増し若い人達のアイデアを内野町に表現出来たらと思います。

西区内野町　長谷川 酉雄 様

担当教職員より

今年度もコロナ禍での活動となりましたが、その中でも、まち歩きや新大ランド等の活動をすることができ、どの活動も充実したものとなりました。来年度は、地域の方との交流、相互理解をより一層深めて、新川ほたるに代わる新たな活動が生まれることを期待しています。

保健学科学務係　渡辺 直秀

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	大説明会 内野町美化プロジェクト(～9 月)
5 月	ミーティング見学
6 月	内野まち歩き
7 月	地域実習報告会
8 月	日本文理高校　まち歩き
9 月	
10 月	新川周辺のごみ拾い
11 月	
12 月	新大ランド（A ホーム合同） ダブルホームシンポジウム
1 月	
2 月	報告書作成
3 月	

12 月 17 日　シンポジウム

12 月 18 日　新大ランド

ホーム　あい

ホームの概要

メンバー構成：1年生5人、2年生8人、3年生4人、4年生4人、教職員4人

活動地域：長岡市栃尾地区

関連団体：栃尾商工会
栃尾観光協会

ミーティング：平日昼休み週1回程度。試験期間はお休み。

成果物・制作物

4月にはおむすびプロジェクトに参加しました。そこで、栃尾の郷土料理であるけんさ焼きをベースにし、かぐら南蛮みそを使用した焼きおにぎりを考案しました。

11 月には伝統的な文化であるてまり作りを行いました。実際に栃尾を訪れ、栃尾てまりの会の方に作り方を丁寧に教えていただき、楽しく製作することができました。

栃尾に ZOOM あい

活動目的と概要

長岡市栃尾地域は上杉謙信旗揚げの地として知られており、様々な歴史や文化、自然あふれる地域です。今年度の活動としてはコロナ禍により満足に活動できない状況下で一度は停滞した活動を再開し、地域と密接な関係を作ることを目指しています。例年行っている地域散策やとちお祭への参加、保育園訪問のほか、ユニホッケーやてまり作りなどを通じた新たな交流活動を行い、発見した魅力を SNS で発信しています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の地域活動について以下の 3 つの目標を掲げました。
①地域に行く活動を定期的に行い、栃尾の雰囲気を肌で感じる。感じ取ったものを Twitter などでコンスタントに発信する。
②継続して密接に連絡を取り合い、地域の人と対面でコミュニケーションが取れる機会を大切にする。
③地域活動ができる期間に訪問できる機会を逃さないよう、簡単に訪問できる環境を作る。コロナ以前の活動について調べ、一度停滞した活動や交流を行えるようにする。

とちお祭への参加やてまりづくりなどのコロナ禍以前に行っていた例年の活動を再開し、昨年度行ったユニホッケー交流会も継続して参加することができました。また、遊雪まつりでのブースの企画運営など新たな活動も始めることができました。そこでは、様々な栃尾の方とお話しし、今後の I ホームの活動につながるような交流を持てました。栃尾への訪問や地域の方との対面での交流をすることで、インターネット上の情報だけではわからない栃尾の新たな魅力の発見ができました。目標②、③の達成を実感しました。Twitter の情報発信では、活動の様子や実際に訪問に参加した学生の感想を発信しました。学生目線で、直接訪問したからこそ感じる栃尾の魅力を伝えることができました。しかしながら、あまりコンスタントな発信とは言えなかったように感じます。

【ホーム運営について】

今年度のホームの組織運営については、以下の 2 つの目標を掲げました。
①昨年度行ったユニホッケーなどの活動を継続して行い、コロナ禍でも交流できるような機会を作る。
②ミーティングで活動の意義や目的の確認、共有を行う。

目標①について、当初は、新入生やホーム内の交流・親睦を目的としたユニホッケーや、感染対策を考慮した親睦会の実施を計画していました。ホーム内の親睦会は行うことができませんでしたが、栃尾で行ったユニホッケーの交流会で、体を動かしながら、学年を超えた交流を深めることができました。

目標②については、活動の計画ばかりに時間を割かれてしまい、十分にその活動の意義や目的を確認する時間を設けることができませんでした。

活動を通して学んだこと

ダブルホーム活動を通して私は地域を盛り上げることの楽しさと難しさを学びました。新たな経験ができる有意義な活動でしたが、困難なこともあり、周りの対応に助けられてばかりでした。この活動で学んだことは必ず将来の役に立つので、様々な困難に挑戦したいです。

川野 由歩（経済科学部 1 年）

栃尾地域の魅力の多面性と奥深さを追求できた一年だったと思います。また、多くの訪問で栃尾のみなさんと対話を重ね、同じ目標のもとに取り組む大切さを学ぶことができました。かけがえのない活動の経験を振り返りながら、今後の成長に生かしていきたいです。

田中 文也（人文学部 3 年）

今年度は制限が緩和され、対面での活動機会が多くありました。全ての活動は多くの人の協力、積極性によって成り立っていることを実感したとともに新たな出会いに感謝し、やってよかったと双方が思える活動をしていきたいです。

桑原 華緒璃(理学部 2 年)

久しぶりに栃尾にお邪魔しましたが、栃尾の皆様に変わらぬ温かさでお迎えいただき帰郷したような懐かしい想いでした。卒業前に再びてまりづくりができ大変嬉しかったです。DH 活動のおかげで新潟をより広く深く感じることができました。4 年間素敵な体験をありがとうございました。

星加 那夏子（農学部 4 年）

今後に向けて

今年度は昨年度に比べ、実際に栃尾に訪れ、様々なイベントへ参加することができました。そして、栃尾の方々との栃尾まつりや遊雪まつり等のイベントでの交流を通して様々な新しい出会いが多い 1 年でした。来年度は従来の活動を見直しつつ、この出会いを通じた新たな活動や、栃尾まつりのようなお祭りでのブース出展など地域の方々の力になる、栃尾を盛り上げられるような活動を行っていきたいです。また、情報発信についても今年の反省をいかし、気楽に発信できる運営を考えていきたいです。

ホームの運営面では訪問数が増えたことによるメンバー間のつながりが強くなったように感じました。しかし、通常のミーティングに参加するメンバーに役割が偏ってしまうことも多かったという課題も残りました。来年度はミーティングに参加しやすい雰囲気作りや、ホーム全体で役割を分担できる組織運営の見直しを行っていきたいです。そして、参加学生もあいホームに参加してよかったと思えるようなホーム運営を行っていきたいと思います。

活動地域より

ここ数年は、コロナ禍であいホームの活動が制限されて、とても残念でした。ホームメンバー同士の雰囲気がよく、栃尾地域への熱い思いを感じています。少子高齢化とともに疲弊感が漂う栃尾地域を救う女神的な存在になってほしいと思います。今後とも、皆様の活動を応援しています。

栃尾商工会　武士俣 利一 様

担当教職員より

栃尾まつりをはじめ、てまり作成、ユニホッケー、遊雪まつり参加など、2 年生を中心に計画性を持って積極的に活動するなど 1 年間頑張りましたね。今後は、学生自らが目的意識を持って活動に参加し、貢献度の高い素晴らしい「あい」が感じられる活動報告に期待しています。

医歯学総合病院医事課　服部 正人

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	大説明会 おむすびプロジェクト
5 月	
6 月	地域散策及び地域の方との懇談会
7 月	地域実習報告会
8 月	栃尾まつり
9 月	
10 月	トチオーレ 秋あじまつり
11 月	てまり作り体験
12 月	ダブルホームシンポジウム ユニホッケー交流会
1 月	
2 月	とちお遊雪まつり
3 月	保育園訪問

8 月 28 日　栃尾まつり

12 月 11 日　ユニホッケー交流会

J ホーム　なごみ

ホームの概要

メンバー構成：　1 年生 2 人、2 年生 7 人、3 年生 2 人、修士以上 2 人、教員 2 人、職員 2 人

活動地域：　小国町樽口地区

関連団体：　樽口観光わらび園

ミーティング：　平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物

料理コンテスト

樽口地区の方からわらびをいただき、11 月に料理コンテストを行いました。それぞれが家で作ったわらび料理をグループラインに載せ、共有しました。

地域実習での川遊び

6 月に行われた地域実習では、新しく入った 1 年生を含めて多くのメンバーで活動することが出来ました。
写真は、川遊びをする中で捕まえた魚たちです。(後でリリースしました)

樽口と築く未来、そして新しい一歩へ！

活動目的と概要

わらびのシーズンから例年 J ホームの活動時期が限られていることが問題となってきました。今年度は一部の時期だけではなく 1 年を通して活動していくことを目指すために、既存のわらび園の活動を通して地域の方々と交流しながら新しい地域での活動の方向性を模索するべく、移行期としての 1 年を歩んでいきたいと考えました。具体的な活動としては 5、6 月のわらび園関係でのお手伝いを継続しつつ、秋には新しい地域の見学に行きました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

長期的な目標としては、わらび園の活動は継続して樽口地区との交流を続けながらも、わらび園開園時期以外は他の地域でも活動することが出来るようになることを目指しました。そして、今年度は新しい活動地域を絞り、一度は見学に行くことを目標としました。

上述した目標の下、今年は 5 月と 6 月に地域に行きわらび園での活動を行いながらも、新潟イナカレッジの井上さんと相談しながら柏崎市別俣地区を新たな活動地域とすることに決め、10 月に見学に行くことが出来ました。
そして、来年度から本格的に別俣地区で活動を行うために 2 月にはスタートアップメンバーを募集し、地域に一緒に行くとともに、樽口地区の方へは今年度で J ホームとしての活動が終了し F ホームと統合することを報告しました。

【ホーム運営について】

昨年度は、コロナの影響や活動時期が限られてしまうことにより地域で活動する機会が少なくなり、メンバーのモチベーションを維持することが難しくなることが挙げられました。
そのため、1 年を通して地域での活動が出来るようになり、メンバーが積極的にダブルホームに向き合えるようになることを長期的な目標とし、今年度としてはミーティングの出席率をあげ、J ホームの現状や今後の方針を自分事として考えるようにすることを目指しました。

しかし、今年度の活動を振り返ってみると、上述した目標を達成したとは言えない状況となってしまいました。新しく入った 1 年生を含め、現役生の出席率を上げることが出来ず、結局昨年度とほぼ同じメンバーのみが活動を継続するということに至ってしまいました。そのため、来年度から始まる C ホームでは、今年度の反省を生かしながら 4 年生以上の方を含めてみんなが積極的にホームに参加する環境を作り出していきたいと考えております。

活動を通して学んだこと

大学生になり学校外でも様々な活動をしたいと思いダブルホームに参加しましたが、実際に小国に行き雄大な自然を全身で感じることが出来ました。また、地域の方々とお話をする中で私たちを受け入れてくれることの温かさを感じ、人に接するときの態度を学びました。

高橋 遼真（経済科学部１年）

今年度は代が変わり 2 年生が引っ張っていくのを見る立場となりましたが、新たな地域へと活動場所が移るなどホームの体制がかなり変わったように感じました。その中でも、それぞれの地域には現地の方々がおりますので、その時その時の出会いを大切にしていきたいなと思いました。

大城 彩花（人文学部３年）

昨年度はコロナ禍もあり中々活動に行くことが出来ませんでしたが、今年度は積極的に地域に行くことが出来ました。しかし、毎回のミーティングを運営することの難しさを感じ、ミーティングは Zoom が中心でありましたが、対面で活動することの重要性を学びました。

加藤 颯真（人文学部２年）

今後に向けて

今年度は、昨年度の 2 月末に教職員の方々を交えて決めた今後の方向性に沿い、樽口での活動を継続しながらもわらび園開園時期以外は別の地区で活動することを目指した 1 年でした。5 月に新潟イナカレッジの井上さんとお話をして別俣地区を紹介していただき、10 月と 2 月に地域を訪れ来年度からこの地域でお世話になることに決めました。

結果的に J ホームが消滅してしまったことは残念でありましたが、F ホームへ樽口での活動を移管することが出来ました。今後は F ホームとも交流を続け樽口にも行きながら、新たに誕生した C ホームとして別俣地区の方々と長い付き合いになるような基盤を作っていきたいと考えております。

ホーム内に関しては、1 年を通して活動するメンバーが減ってしまったことが、自分の力の無さを痛感し非常に悔しかったです。C ホームでは、今年度以上に周囲を頼りながら積極的に顔を合わせメンバー間の交流を深めていきたいです。

活動地域より

今年から新たに別俣地区を訪れてくれてありがとうございます。私たちは学生さんと長い付き合いをしていきたいなと考えておりますので、今後ともよろしくお願いします。

柏崎市別俣地区　池嶋 武盛 様

担当教職員より

J ホームは令和５年３月末で終了となりますが、ここに至るまでに、新たに柏崎市別俣を活動場所として加え、樽口と別俣の両者での地域活動を試みるなど、みなさんにとって貴重な経験ができた１年だったと思います。この経験はぜひ今後に活かしてください。

学生支援課　中村 紘朗

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	大説明会
5 月	わらび園開園準備(樽口)
6 月	わらび園閉園作業(樽口)
7 月	地域実習報告会
8 月	
9 月	
10 月	別俣地区初訪問(別俣)
11 月	料理コンテスト
12 月	F ホームと合同地域訪問 ダブルホームシンポジウム
1 月	
2 月	スノーフェスタ(別俣) ホーム移管の挨拶(樽口)
3 月	

5 月 15 日　わらび園開園作業(樽口)

2 月 5 日　スノーフェスティバル(別俣)

ホーム　かもろに

ホームの概要

メンバー構成：1 年生 6 人、2 年生 7 人、3 年生 7 人、4 年生 4 人、修士以上 1 人、教員 2 人、職員 2 人

活動地域：新潟県加茂市

関連団体：加茂青年会議所
加茂商工会議所青年部
plat KAMON ぷらかも♪

ミーティング：平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物

あかりばの際に作成した
「竹あかり」

非対面開催のクリスマスイベントで
作成したリース

加茂ってすごいカモ！プロジェクト

活動目的と概要

私たち K ホームは新潟県加茂市で活動を行っています。加茂市は「北越の小京都」であると同時に地域の方々同士の結びつきが強い場所だと感じています。そんな加茂市で私たちは「大学生の私たちにしかできないこと」を常に考えながら地域の魅力を伝える広報活動やインターンシップ活動、さらには加茂市の子供たちと交流を深める活動に力を入れています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

Kホームは今年度の地域活動の目標として、「①地域の方々と一緒に学び合い、地域に対する理解や愛着を深める。」「②若者の力に目を向け、様々な年代の人に加茂の魅力を知ってもらえるような活動を行う。」の 2 つを掲げました。

①の目標に関しては、地域の方との意見交換会で加茂に対する思いを互いに知ることができたため一部達成できたと言えるものの、訪問回数が加茂を理解するには不十分であったと感じています。

②の目標に関しては、対面・非対面という場面に適した活動を行うことが出来ましたが、YouTube や Instagram での新たな広報活動は、活用しきれず達成には及びませんでした。

【ホーム運営について】

私たちは、今年度のホーム運営の目標として、「①メンバー間の信頼関係を高め、ともに活動したいと思えるホームにする。」「②加茂市に地域活動が無くとも訪れたいと思えるようになる。」「③目標に基づいた活動を行い、参加意義を高める。」の 3 つを掲げました。

①の目標に関しては、Zoom を介したミーティングが多く、より密なコミュニケーションをとることが出来なかったことや、ホームメンバーで交流する機会をあまり設けることが出来なかったことから、十分に達成できなかったと感じています。

②の目標に関しては、実際にホームメンバーで加茂市の祭りに遊びに行くことがあり、一部達成できたと言えるものの、加茂市の魅力を知るにはまだまだ多くの加茂市訪問が不可欠だと痛感しているため、次年度はより地域活動を活発にし、加茂市にもっと訪れたいと思えるよう努めていきます。

③の目標に関しては、活動を実施する前に必ず活動目標を明確にするということに 1 年を通して意識してきたため、おおむね達成できたのではないかと感じています。この取り組みは次年度も続けていきたいです。

活動を通して学んだこと

活動を通して、地域の魅力を実際に自分で体験し発見することが大切だと思いました。また発見した地域資源を活かすには、様々な人との協力が必要だということを学びました。今後も加茂市の魅力を自分の足で発見し、多くの人とのあたたかい交流を大切にしていきたいです！

今井 心愛（創生学部１年）

私は今年度のＫホームでの活動を通して、地域の方々の加茂に対する思いの強さを学生が活動しやすい雰囲気作りの難しさを学びました。また、新たなアイデアを出すことも容易ではなかったので、学生らしい創造性と地域の方の熱意が融合した活動を今後は目指していきます。

阿部 恵太郎（経済科学部２年）

私がダブルホーム活動を通して学んだことは、積極的に発言、行動することです。なにかイベントをする際や企画をする際には、積極的にアイデアや意見を出していくことで、よりよいものになるということを学びました。

塚野 真衣（経済科学部２年）

今年度は地域の子どもたちと触れ合う活動を中心に企画しました。様々な世代の地域の方と関わる中で、多様な人を巻き込みながら「実際に体験する」ことが街を活気づけるには重要だと感じました。全ての人にとって魅力ある加茂を創るためにこれからも活動していきたいと思います。

松原 啓（教育学部３年）

今後に向けて

昨年度から、Ｋホームのチームを「①小中学生を対象とした交流活動」「②学生の専門分野を活かした活動」「③地域の魅力を伝える広報活動」の 3 つに細分化し、活動を行ってきました。そして、今年度は①の活動を重点的に行い、子どもたちとの交流に必要なことや意識すべきことについて理解を深めることが出来たと感じています。

今後の活動では、今年度に引き続き①の活動に力を入れ、②、③の活動にも並行して力を入れていきたいと考えています。②の活動に関しては、加茂市の子どもたちを新潟大学に招待し、私たち大学生が大学で何を学んでいるのか、どんな環境で学んでいるのかを紹介するイベントを計画できないか模索しています。また、このイベントはＫホームだけにとどまらず、多くのホームに協力を依頼するのも有効であると考えています。③の活動に関しては、現段階で YouTube と Instagram を用いて行っていますが、なかなかうまく活用しきれていないという状況です。加茂市には多くの人が驚くような魅力がたくさんあると確信しているため、その魅力を上記のプラットフォームにて効果的にアピールできるよう、学生間で知恵を出し合って活動していきます。

活動地域より

Ｋホームのみなさん！加茂を選んでくれてありがとうございます。加茂を知ろう、加茂で活動しようと様々なアイデアの提案とても嬉しいです。アイデアを試せる加茂市！楽しいカモできるカモを一緒にやりましょう！大学生が一緒に活動してくれることに子供も大人もワクワクです！

plat KAMON ぷらかも♪ 乙川 智子 様

担当教職員より

Ｋホームの活動は、未来への過渡期にあります。まち歩きなど、加茂を知るための「交流の段階」を超え、加茂に何か「新たな価値を生み出す段階」に進めるか。というと難しそうですが、素直に皆さんの「これってワクワクする？」という感覚、「ノリ」を大事にすれば良いのです。それが若者のみずみずしい感性を活かす鍵になる。市民の方々も、皆さんの提案を楽しみにしていると思います。一緒に楽しんでいきましょう！

教育基盤機構　樋口 健

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	大説明会
5 月	まち歩き
6 月	
7 月	まち歩き 地域実習報告会
8 月	
9 月	あかりば
10 月	
11 月	
12 月	クリスマスイベント ダブルホームシンポジウム
1 月	
2 月	塞の神
3 月	まち歩き

7 月 10 日　まち歩き

2 月 5 日　塞の神

L ホーム　輪～つながる～

地域とつくる大きな輪～坂井輪でよりつながるＬホームに～

ホームの概要

メンバー構成：　１年生６人、２年生６人、３年生８人、教員３人

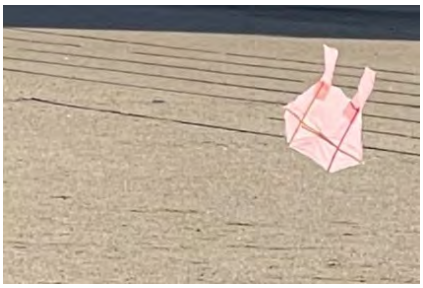
活動地域：　新潟市西区坂井輪中学校区

関連団体：　坂井輪中学校区まちづくり協議会

ミーティング：　平日昼休み週１回程度

成果物・制作物

４月の子ども食堂で作成した紙コップ工作



１月の子ども食堂で作成した凧
初の試みで、室内を飛び出し近くの小学校のグラウンドに揚げに行った

活動目的と概要

私たち Ｌ ホームは、新潟市西区坂井輪中学校区というところで活動しています。新潟大学からは比較的近距離にあり、活動はしやすいです。活動の目的は、「学生と地域の方のつながりを作り、広げていく」です。まちあるきや顔合わせ、季節ごとの地域活動を通じ、学生と地域とのつながりを作っています。私たちは、様々な活動を通じ、多くの世代の方々と関わっています。その中でも、主に子どもたちと関わる、子ども食堂では、私たちが主体となり企画を考え、子どもたちと触れ合っています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度は、①坂井輪と Ｌ ホームのつながりをより深く強固なものにすること、②活動の幅を広げ、Ｌホームが坂井輪でつながる活動をすること、という２つの目標のもと、活動してきました。

まず、①についてですが、対面で行える活動も増えてきて、昨年度は行えなかった活動もいくつか行うことができました。また、地域の方々と話すことで、学生がなにを望んでいるのか、地域の人が何を期待しているのか知ることができました。そのおかげで、地域の井戸端会議に呼んでもらったり、学生側も、新たな試みに踏み切ることができたりしました。しかし、学生側の連絡不足により、地域の方々に多大なご迷惑をおかけしたことが多々あったので、活動時だけでなく、日ごろからつながりを大切にしていくことが課題として残りました。

②の目標については、おおむね達成できたと感じています。①でも記述した通り、昨年度より多くの活動を対面で参加でき、活動の幅も広がったからです。また、子ども食堂には、澤邉先生のゼミ生や、他ホームの方にボランティアとして来てもらうなど、Ｌホーム以外の方にも、坂井輪がどんな地域かを知ってもらうことができたと思います。

【ホーム運営について】

今年度は、「新一年生が積極的にやりたいと思ったことを実現できるようなホームにする」という目標のもと、活動してきました。こちらについてはあまり達成できなかったように思います。ミーティングへの出席や、連絡など、上級生がお手本となるような行動を取れていなかった点や、いざやりたいことを出しても、実行までもっていくだけの手間を惜しんだりした点が原因として挙げられます。今年度は、これをやりますという決定事項を伝達するだけだったので、来年度は、時間的な余裕をもって、新一年生がやりたいと思うことを地域の方と相談しながら実行していきたいと思います。とはいえ、毎回の子ども食堂では、遊びの案を積極的に出してくれるなど、一年生の主体性には、助けられる場面がありました。

活動を通して学んだこと

大学の授業のない春夏冬の長期休みに活動があったので、友達と遊びに行くような勉強の息抜きのような楽しい感覚で地域活動に参加することができました。そして、この活動を通して受け身だけでなく、積極的に行動するということを学ぶことができました。

石井 美沙稀（経済科学部１年）

子ども食堂の活動を中心に、ミーティングやシンポジウム、地区のイベントの協力など、様々な活動を行いました。秋からは、役職の交代があり、新たな体制で活動し、一人一人が積極的に参加することが必要であるとわかりました。

皆川 笑香（経済科学部２年）

私はＬホームに所属し、人と協力し活動することの大変さや達成感を学びました。子ども食堂では、子どもたちが楽しめるような遊びを、ホームのメンバーと話し合い、考えました。最初は一緒に遊んでくれない子どももいましたが、徐々に子どもとお話をして活動することが出来ました。

三瓶 亜衣奈（法学部１年）

地域と学生との連携の重要性について学びました。子ども食堂の運営の中で地域の皆様や学生への連絡や共有がうまく取れない場面があったため、小さな事柄でも双方へ情報共有を行い、地域の活動を任されている責任を忘れずに活動することが大切だと感じました。

福原 綾乃（人文学部３年）

今後に向けて

シンポジウムでの話し合いを通して、他のホームの現状や、１人１人の、ホームや地域や学生に対する想いを知ることができました。共感するところもあれば、「そういう想いを持っているのか」と驚かされることもありました。ただ同時に、こういった想いを実現できているのかという疑問も生まれました。話し合いの中で出た意義や心掛けていることを実現できていれば、今よりも活発な活動ができているのではないかと思ったからです。

私たちＬホームの現状は、あまり良いものとは言えません。お互いがどんな理由で活動に参加しているのかも曖昧で、ホーム内でも、事務連絡がほとんどです。シンポジウムを通して、地域の方々の声も聞くことができました。地域の人の想いと、学生の姿勢が見合うものではなく、このままではいけないと思いました。そのため、次年度からの活動では、まずホーム内で地域活動への想いを共有し、同じところへ進むように活動していきたいです。また、当たり前のことをしっかりこなし、地域の方々と、より多くのコミュニケーションをして、他人行儀的な壁をなくしていきたいです。地域と学生が共に楽しめ、１つになれるような活動をしていきたいです。

活動地域より

Ｌホームの皆さん、コロナ禍の中で今年１年子ども食堂へ参加いただきありがとうございます。今年は私共の地域活動に若い皆さん方から力をいただく機会が少なかったように思われますが、令和５年度には一歩前へ出ていただいて、多くの仲間と活動いただけることを期待しています。コロナに負けず一緒に大きな輪づくりを進めましょう。

坂井輪中学校区まちづくり協議会　梶原 宜教 様

担当教職員より

今年度もコロナ禍が続きましたが、地域の皆様との対話機会も増え、「子ども食堂」を軸に活動が展開されました。地域のサポートのおかげで学生の主体性が育まれ、新しい活動への意欲が高まっています。学生の今後の活躍を期待するとともに、地域の皆様のご協力・ご支援に感謝申し上げます。

創生学部　澤邉 潤

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	大説明会
5 月	
6 月	
7 月	まちあるき 地域実習報告会 子ども食堂 in 夏（～8 月）
8 月	地域の人と顔合わせ
9 月	防災ワークショップ （防災に関する講演・防災食作り）
10 月	
11 月	
12 月	ダブルホームシンポジウム 子ども食堂 in 冬（～1 月）
1 月	
2 月	
3 月	子ども食堂 in 春（～4 月）

7 月 10 日　まちあるき

9 月 24 日　防災ワークショップ

ホーム　**ねすと**

ホームの概要

メンバー構成：　1 年生 6 人、2 年生 5 人、3 年生 9 人、4 年生 3 人、修士以上 1 人、教員 2 人、職員 1 人

活動地域：　新潟市中央区万代地区

関連団体：　NST 新潟総合テレビ

ミーティング：　平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物

おむすびパンフレット

各ホームの方に協力してもらい、完成することができました。各ホームの学生だけでなく、地域の方々のアイデアがつまったおむすびが集まっているパンフレットはダブルホームに関わる多くの人の想いがつまった傑作です！！

万代からはじまる・つなげるプロジェクト

活動目的と概要

新潟市万代シテイを拠点に地域の魅力を発信するだけでなく、他ホームとの連携によるダブルホーム全体の情報発信をすることも目的として昨年度誕生したホームです。

今年度は、テレビ局である NST や万代シテイの皆様をはじめ、新潟市中心部で活動なさっている方々と共に様々なイベントへの参加や、各ホームに協力を仰ぎ「おむすび・えんむすびプロジェクト」を行いました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度は、①ホーム・地域の広報活動を担う「エンタメ部」中心に、万代地区の魅力を新潟大学の学生という立場で発信していく、②昨年度参加した地域のイベントの経験をもとに、イベント参加の継続と N ホームとして企画をつくり、参加する、を目標に掲げていました。

エンタメ部としての活動は、当初自ら SNS 等を運用する活動を想定していましたが、NST さんの Youtube チャンネルや新潟まつりの特番への出演などを通し、新潟大学の学生という立場での発信・PR 活動を行いました。

また、昨年度から継続して行ってきた「おむすび・えんむすびプロジェクト」は N ホームが中心となり、ダブルホーム活動全体を巻き込む新しい形の企画として進めてきました。ダブルホーム全体のことを外部に発信するという N ホームの 1 つの役割を果たすことに一歩前進したプロジェクトとなっており、今後の完成したパンフレットの活用方法について検討しています。

【ホーム運営について】

年度初めには、①新型コロナウィルスの感染拡大防止に努め、ホーム内でも感染者を出さないように日ごろから対策する（都市部でのイベント参加においても、不特定多数の接触を避けながら、充実した活動になるように工夫する）、②なるべく多くの人が積極的に活動に参加できるように、ひとりひとりに役割を振る、③NST の方々との連携を大切にし、お互いの信頼関係を深めていく、この 3 つを掲げていました。

ミーティング・イベント時の感染症対策は達成できたといえます。またシンポジウムの準備において、うまく仕事分担を振り分け、皆で取り組む意識を持つことが出来ました。NST さんとの連携についても、8 月の新潟まつり特番や 9 月の NST まつり生配信出演など、様々な形で関わらせていただきました。今後は、私たち側からのアクションで共に活動をしていけたらと思います。

活動を通して学んだこと

N ホームで活動して、積極性の大切さを学びました。地域の方々の地域をより良くしたいという熱い思いや、メンバーの独創的な考えや多彩な活動を見聞し、自分もより積極性を持って活動したいと思ったからです。今後は、普段の活動に加え、何か新しい活動ができないかを考えていきたいです。

田代 愛理（法学部 1 年）

誕生して 2 年目を迎えた N ホームですが、今年はさまざまな活動を行いました。1 年目の冬から行っていた、おむすびプロジェクトのパンフレットが他ホームとの協力を経て完成したり、NST まつりや新潟まつりへの参加など、充実した活動ができたと思います。これからも学生が主体となり、万代地区の魅力や課題解決を目指すため、たくさんの活動を行っていきます。

森山 啓（経済科学部 3 年）

N ホームでの活動を通して、今まで身近にあった「万代」という地域を地域企業・住民の視点から考えることができ、活動地域に対する新しい見方ができるようになりました。万代がさらに発展し地域の人だけでなく新潟県民から愛される場所として居続けられるよう、今後の活動に取り組んでいきたいと思います。

結城 瑠南（経済科学部 2 年）

N ホームは活動地域の性質上、他のホームに比べて制限が多く、対面での活動が難しかったと思います。そんななかでも後輩の皆さんは自分たちがやれることを考え行動していました。あまり力にはなれませんでしたが、N ホームでの活動は自分の暮らす街を見直す良い機会になりました。

坂田 功星（経済学部 4 年）

今後に向けて

今年度の N ホームは、おむすびパンフレットの活動や、NST さんとのコラボ活動など、多くの方々との関わり・縁を大切にできたと感じています。今後もこのご縁を繋げていけるよう、私たち側からの提案や働きかけを意識していきたいと思います。

また、おむすびパンフレットの活動については、他ホームを巻き込みながら、ダブルホーム活動全体を盛り上げることが出来たのではないかと感じています。今後もホーム間の連携を図るような企画を実行できたらと考えています。

まだ発足して間もない N ホームですが、模索しながらも様々なことにチャレンジできていると感じています。今後は、N ホームの軸となるような活動を熟考したり、N ホームや万代の広報活動に力を入れたりしていきたいと考えています。

活動地域より

N ホームの皆さんの、勉強熱心な部分に本当に驚いています。皆さんの熱心に取り組む姿勢は、社会人になっても絶対に役に立ってきます。引き続き頑張ってください！
今後、もっとリアルな活動ができるよう、我々も後押ししていきます！

NST 小山 亮輔 様

担当教職員より

地域のイベント参加だけでなく、ダブルホーム全体を巻き込んだ企画を行うなど様々なことにチャレンジした 1 年だったと思います。これからも地域の方・学生・教職員で協力し、共にホーム活動を盛り上げていけることを楽しみにしています。

研究企画推進部研究推進課　春日 智啓

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	大説明会
5 月	
6 月	
7 月	街歩き 地域実習報告会
8 月	新潟まつり特番
9 月	NST まつり
10 月	新大 Week ピア万代のハロウィンイベント
11 月	
12 月	おむすびパンフレット完成 ダブルホームシンポジウム
1 月	
2 月	
3 月	

10 月　新大 Week

12 月 17 日　シンポジウム

Q ホーム　SunQ

Home の概要

メンバー構成：１年生５人、２年生５人、３年生５人、４年生７人、修士以上３人、教員２人、職員２人

活動地域：村上市早稲田地区

ミーティング：平日昼休み週１回程度

成果物・制作物

今年度においてもかわら版を作成しました。Q ホームと地域の方々をつなぐ重要なツールの一つとなっています。

11 月のシンポジウムでは、クリスマスリースづくりのブースを出展しました。地域の方々の協力のもと、ブースに来た人たちが思い思いのオリジナルリースを作成しました。リースは早稲田のしめ縄の技術をもとに作られたものとなっています。

わせだ SunQ ～早稲田に感謝を伝えよう～

活動目的と概要

自然豊かな新潟県村上市早稲田地区をフィールドに活動しています。しめ縄づくりや才の神などの地域行事では地域の歴史や伝統を学び、収穫祭や地域の神様をまつる大平山に登る、三吉様参拝などの活動を通して、早稲田地区の地域理解につなげます。また、学生による「早稲田発見！クイズラリー」のような学生企画も行い、早稲田地区を盛り上げるようなチャレンジ企画を行うことも視野に、活動しています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の地域活動の目標は、以下の４つです。

１つ目は、地域の行事への積極的な参加をし、地域住民との関係性をより深めることでした。前年度に比べ地域に訪問する機会も増え、地域の方々との関係性を深められたという声も多く、達成に近づいたと言えます。

２つ目は、地域内での学生によるチャレンジ企画をすることでした。おせっかい隊の企画などで独自の取り組みをする機会はあったものの、それらの企画を実行段階に移すことはあまりできていませんでした。

３つ目は、地域の方との「協働」型イベントを開催することでした。シンポジウムでは地域の方と協働してしめ縄リースの構想を練ることができたものの、全体を通して協働でのチャレンジ企画というものはあまりできませんでした。

４つ目は地域との日常的なコミュニケーションを図れるようなツールを作り、双方向での近況報告をしあえる関係を築くことでした。地域の方と電話や Facebook で近況を話し合ったりするなど、密接な情報共有を行うことが出来ました。

【ホーム運営について】

今年度のホーム運営目標は以下の４つです。

１つ目は、ホーム内での交流の場を創出し、対話によるより深い関係性を構築することでした。地域活動や普段のミーティングなどで多く交流できたという声があった一方、参加メンバーが固定化しているという声もありました。

２つ目は仕事を分担するなどし、皆で共に作り上げる組織体制の構築をすることでした。分担に偏りがある、そもそも分担があまりできていないという声が多くありました。

３つ目は、互いに気軽に話せるなどの、プレッシャーのない交流ができる関係性の構築をすることでした。ミーティングのはじめにアイスブレイクを導入するなどして、気軽に話すことのできる環境づくりができました。

４つ目はアイデアを素直に提案でき、それをカタチにできる体制を目指すことでした。アイデア自体は多く上がることが多かったものの、形にするというプロセスがうまくいきづらいことがしばしばありました。

活動を通して学んだこと

1 年間の活動を通し、地域活動の楽しさと難しさを知りました。地域の方々と協働して行事などを進めるのは非常に楽しく、満足感は何物にも代えがたいものです。一方で、地域には困難な課題も多くあります。多様な課題に対し、学生の企画力を活かせる取り組みを模索していきます。

澤田 翔（法学部 1 年）

今年度はコロナによる制限が緩和され、様々な地域活動ができました。早稲田の歴史、文化に触れ、シンポジウムではそこで学んだことを活かしながら、試行錯誤してリースをつくりました。この地域活動からシンポジウムという一連のストーリーで「早稲田の稲作、わらの文化」について、ワンイシューで学びをより深めることができました。

萩原 大貴（法学部 3 年）

地域活動へ積極的に参加できた 1 年でした。これまでお会いできなかった役員以外の方々とも交流できたことで、より早稲田への理解が深まったと思います。一方で、学生主体で企画を行うことの大変さも実感しました。来年度は、さらに早稲田との繋がりを強化していきたいです。

中田 七生（経済学部 2 年）

久しぶりにミーティングに参加し、後輩の皆さんの新しいことにチャレンジしようとする姿勢に感銘を受けました。例年通りのことができないという状況の中で、現状維持を目指すのではなく、やりたいことをどんどんやっていこうという積極性に私自身とても刺激を受けました。

南川 ゆきみ（学部 4 年）

今後に向けて

今年度は、昨年度に比べより多くの活動を対面の形で行うことが出来ました。かわら版の発行や Facebook による地域の方との情報共有により地域とのつながりを維持していくことに加え、おせっかい隊の活動の企画やシンポジウムのブース出展を地域の方と行うなど、新たな取り組みも行うことができました。この点については、来年度以降も継続していくとともに、地域とのつながりを様々な活動を通して行っていければと考えています。才の神への参加は、コロナウイルス流行以降はできていませんでしたが、今年度参加することが出来ました。また今年度は参加までには至りませんでしたが、来年度以降はおせっかい隊の活動に実際に参加することを考えています。来年度以降も、このような地域行事を通しての地域理解や地域での課題解決に取り組んでいければと思います。

一方で、イベントに向けた準備やホーム内での協働という点では課題があるといえます。今年度企画から実行に至るまでのプロセスが遅れてしまったり、仕事の負担に偏りが生じてしまったりといったことがあったので、余裕のある早めの準備や、役割分担の明確化(みんなが主役のホームづくり)を行うことを目標にしたいと考えています。

活動地域より

Q ホームの大勢の皆さんには、集落行事にご参加いただきましてありがとうございます。各行事ともに慣れない作業ではありますが、真面目で真剣に取り組んでいただいた事に感謝申し上げます。また、OB の皆さんの参加も大感謝です。今後も、皆さんを楽しみにお待ちしています。

村上市早稲田地区　富樫 敏栄 様

担当教職員より

今年度は、早稲田地区の方々のご理解もあり、ようやくさまざまな地域活動を行うことができました。地域に行ってみて初めてわかったこと、感じられたことが多々あったことと思います。それらがこれからの積極的な地域活動につながっていくことを期待しています。

人文学部　飯島 康夫

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	かわら版発行(基本毎月発行) 大説明会
5 月	
6 月	みよし様参拝
7 月	しめ縄づくり 地域実習報告会
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	Q ホーム紹介動画作成
12 月	しめ縄リースの試作打ち合わせ ダブルホームシンポジウム
1 月	才の神
2 月	振り返り会
3 月	

7 月 10 日　しめ縄づくり

6 月 19 日　みよし様参拝

R ホーム　あっとほーむ

そば作りを通した地域との交流と絆

ホームの概要

メンバー構成：1 年生 5 人、2 年生 5 人、3 年生 8 人、4 年生 5 人、修士以上 4 人、教員 3 人、職員 1 人

活動地域：阿賀町七名地区

関連団体：阿賀町上川支所、阿賀町勝手に応援団、七福荘、地域おこし協力隊、とんぼの会

ミーティング：平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物

そば祭りで提供されたお蕎麦

活動目的と概要

私たち R ホームは、山に囲まれた自然豊かな阿賀町七名地区を活動の拠点としています。七名地区はそばが有名で、従来私たちはそば作りを中心に一年間活動します。種まきから収穫、唐箕がけを経てそば粉にし、最後は地域の方にそばをふるまいます。また、七福の里祭りや上川そば祭りなどのお祭りにも参加し、地域の方との交流を深めます。今年度はコロナウイルスにおける制限が徐々に緩和され、上川そば祭りが 3 年ぶりに復活しました。地域の方々の気持ちに寄り添いながら活動することを意識しています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の長期的な目標は「学生が、外部の人ではなく、地域の一員として活動する」でした。地域の一員として活動するということを、11 月に行われた上川そば祭りで実行できたのではないかと考えます。地域の方々が温かく迎え入れてくださったおかげで、私たちも地域の一員という自覚を持って、お手伝いさせていただくことができました。

また、具体的な目標として、「メンバーが地域のことについて改めて学ぶ機会を作る」というものがありました。これに関して、7 月に行われた地域散策の際に、石川久作様より地域の魅力や課題等をお話いただき、上級生も下級生も七名地区の新たな魅力を発見することができました。

しかし、今年度は地域を訪問できる回数が少なかったため、地域の方との密な交流というところまでは至らなかったと考えます。このことについて来年度以降の課題として、より地域の一員として地域に密着しながら活動できるようにしたいと考えています。

【ホーム運営について】

今年度の目標として、4 つ掲げていました。1 つ目は「全員が発言しやすい工夫をする」、2 つ目は「同学年の学生同士が交流できる環境づくり」、3 つ目は「高学年から低学年への情報継承」、4 つ目は「各メンバーへの役割分担」でした。

1 つ目に関しては、ホーム長が下級学年の学生にも発言を振ってくださることで、発言しやすい雰囲気ができていたと考えます。2 つ目に関しては、同学年同士の交流の場をあまり設けることができなかったので、来年度改善する必要があると考えます。

3 つ目・4 つ目に関しては、まずミーティングに参加する人数を増やすことが大切であると考えます。そうすることで、情報継承や役割分担もスムーズにいくのではないかと感じます。来年度以降、対面とオンラインを上手く活用し、皆が参加したくなるようなミーティングにしていきたいと考えます。また、引き続き、学年関係なく誰もが発言しやすい環境を整えることを意識します。

活動を通して学んだこと

私が活動を通して学んだことは、地域を大切にすることによって得られるものの大きさです。活動を通じてその地域や地域の方々、ホームの仲間をより好きになると同時に、地元に対する愛着が芽生えました。この思いを大切に今後の活動も有意義なものにしていけたらと思います。

今井 紗和子（経済科学部１年）

私は昨年ホーム長を務めさせていただき、活動していく中で多くの困難に直面しましたが、中でも役割分担が大変でした。しかし、やるべきことをひとりで抱え込んでしまう自分の短所を発見でき、意識的に誰かを頼ろうと思えるようになったので、自分にとって有意義な経験でした。

土屋 拓生（経済科学部３年）

様々な人々と関わることで、新しい発見があることを学びました。地域散策やそば祭りなどの地域との関わりを通して、人との関わりの大切さをまず第１に実感しました。地域の方々はたくさんの知恵や経験を持っているため、多くのことを吸収していきたいです。

清野 美咲（農学部２年）

活動を通して学んだことは沢山ありますが、その中でも特に多面的な視点から物事を見るということを学びました。地域の方、教員の方、学生と多様な立場の方たちと意見交換をする機会があったからこそ、沢山の視点を持つことの大切さ、受け入れる姿勢を学べたのだと思います。

豊増 唯（理学部４年）

今後に向けて

今年度のシンポジウムは、３年ぶりに対面で開催されました。普段、他ホームと関わる機会はあまりないので、様々な地域の熱量を感じることができ、とても有意義で刺激的な時間となりました。他ホームの活動を参考にし上手く取り入れながら、Ｒホームらしく活動をしていきたいと考えます。また、阿賀町で活動しているホームが他にもあるので、今後そのホームたちとの連携も深めていきたいと考えています。

今年度、そば祭りの開催があるなど、コロナ禍の制限が徐々に緩和されてきました。祭りの復活と共に、七名地区ももっと盛り上がっていけるよう、私たちも地域の一員として活動に参加したいです。

まず、来年度は地域に訪問する機会を増やしていきたいと思います。学生それぞれが地域の方と積極的なコミュニケーションをとりながら、地域に寄り添った活動をしたいと考えています。七名地区の皆さんにとって、Ｒホームが頼りになる存在にしていけるよう頑張ります。

ミーティングに関しては、「皆が参加したくなるようなミーティングづくり」を目標にします。地域の方との結びつきもホーム内での結びつきもより一層強くなれるよう意識します。

活動地域より

コロナ禍の活動制限が続きましたが、今度は従来のような地域交流が復活できると思います。これまでの自粛期間に温存しておいた皆さんのアイデアを放出させて、新たな地域交流が生まれることを期待しています。七福の里祭りも今年から復活する予定ですので、Ｒホームの皆さんの応援を期待しています。

阿賀町上川地区　石川 久作 様

担当教職員より

この一年、地域活動が従来の形に戻りつつあり、伸び伸びとした活動の場に、阿賀町の皆さまと交わす笑顔や感謝が多くありました。初めての活動に新鮮な気持ちで取り組む中で、地域へどんな貢献ができるか、自分たちの学びは何か、一人一人が目標を持って取り組んでいきましょう。

人文学部　干野 真一

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	大説明会
5 月	
6 月	
7 月	七名地区地域散策
	地域実習報告会
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	上川そば祭り
12 月	ダブルホームシンポジウム
1 月	
2 月	
3 月	

7 月 3 日　地域散策

11 月 27 日　上川そば祭り

Sホーム　しいたけ

ホームの概要

メンバー構成：１年生６人、２年生２人、３年生９人、４年生５人、修士以上１人、教員３人

活動地域：阿賀町中ノ沢地区

関連団体：NPO 法人お山の森の木の学校

ミーティング：平日昼休み週１回程度

成果物・制作物

見晴らし台

しめ縄

Ｏｈ！待ちきれない！中ノ沢と元気になるＳホーム！

活動目的と概要

Ｓホームは阿賀町中ノ沢地区で活動しています。緑に囲まれた土地と地域の方々の温かさで、ほっと安心できるホームです。炭焼き窯やさいのかみなど伝統があるものや、透き通った美しい川や大きな天然杉など自然も豊かで、たくさんのおすすめポイントがあります。私たちは「楽しむ」を第一に掲げ活動しています。地域の方々は学生が中ノ沢で楽しく活動している姿を見て喜んでくださいます。Ｓホームでの活動を地域の方々と共に全力で楽しみ、さらにそこで得ることのできた中ノ沢の魅力や発見を発信していきます。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の目標：１．昨年度よりも対面での活動を重視し非対面での活動も取り入れた活動を行います。２．昨年度以上にホーム内でのコミュニケーションの場を設けることに加え、中ノ沢の方々とも積極的にコミュニケーションを取って、地域とのつながりやホーム内の仲を深めます。３．Ｓホームの魅力を発信する目的で、ＳＮＳの活用を本格的に開始します。

達成状況は 1.については昨年度よりも対面での活動が可能になり、対面での活動が厳しい場合には非対面で行うなど対面・非対面の活用を上手に行うことができました。2.については定期的な活動に加え、一年生歓迎会などメンバー間での交流の場を設けることでつながりを深めることができたと感じます。また、昨年度よりも対面での活動が増え現地に行く回数も増えたことで地域の方々とのつながりも深めることができたと感じます。３．について、今年度から新たな試みとしてインスタグラムを開始しました。魅力を伝えるという意味合いもありますが、何よりＯＢＯＧの方々へ現状を伝えるという意味合いもありました。

【ホーム運営について】

今年度の目標は 1.各訪問やシンポジウム等のイベントの担当者を明確にし、一つ一つに責任を持って取り組む、2.イベント等の担当になった人は主に全体への細かい役割分担などを働きかけ、担当者のみに負担がかからないような工夫をする、という２点でした。

達成状況は 1.イベントごとにしっかりと人を振り分けることが満足にできませんでした。ホームメンバーに対して仕事を振らずに自ら仕事を抱えることもあり来年度への課題です。2.全体的に仕事のとりかかりが遅かったという点はありましたが、責任者は他の人にうまく仕事を振ることができたと思います。また、今年度は対面での活動とミーティングが増え、メンバー同士顔を合わせる機会ができたことで、昨年度に比べるとメンバー同士の交流が行えていたと感じます。しかし、出席するメンバーが固定化されていたことが課題でした。ホーム内の輪を今以上に広げるために貴重な対面の機会をどう活かすか、さらに、非対面の場合においても思い・自分の意見を自由に共有できる環境を整備するのが重要だと感じた１年でした。

活動を通して学んだこと

今年度は地域で２年目の活動になります。１年目は不慣れだった道具の扱いも２年目はスムーズにできるようになり、先輩が後輩にコツを教える姿も見られるようになりました。今年度は地域の食も楽しみながら地域の方、ホームのメンバーとの関係を深めることができました。

長谷川 紗希（人文学部３年）

今年度は多くの対面活動を行うことができ、今までよりも準備にかける時間が多くなりました。準備の時間はメンバーや地域の方々とのアイデア出し、日程調整等決めなければならないことがあり、まとめることが難しかったですがやり終えた時には達成感があり成長できたと感じました。

岡田 航大（理学部３年）

私は初めての訪問で、地域に暮らす皆さんの温かさや思いから地域の魅力を直接感じることが出来ました。そして、Sホームの活動ではメンバーとの協働から自分の出来ることを率先して行動することや連携することの大切さを学びました。これからも地域に貢献できる存在でありたいです。

深澤 寛子（人文学部１年）

今年度は昨年度よりも活動に対する規制が緩和され、活動中に地域の方との食事を行うことができたり、例年の活動とは異なるような活動内容を計画したりするなどより挑戦的な活動ができた１年だと思います。そのような活動を行う中で、ホーム内での意見交換や連携がうまくいかないと活動がうまくできないことをより学ぶことができた１年でした。

及川 将平(経済科学部３年)

今後に向けて

今年度の活動では、昨年度以上に対面での地域訪問、ミーティングの機会も増えホーム内メンバーおよび地域の方々との交流を深めることができました。感染症対策としてある程度の制約（ソーシャルディスタンスや消毒等）がある中、ここまで活動できたことはとても大きかったと思います。実際に現地へ行って地域の方々と交流することで、地域の方々の想いや優しさを感じ取ることができ「この活動をやっていてよかった」と思うことができました。また、ミーティングに関しても対面での機会が増えたことにより同学年はもちろんですが他学年とのつながりも深めることができたと感じます。また、新しくホームの情報発信としてインスタグラムを始めましたが、現段階では活動の報告に使用している形になっています。今後の目標としては SNS のさらなる活用によって、現在の状況に加えて地域の魅力についても発信していけたらよいのではないかと思います。そのためにもみんなで考え協力し、地域訪問の一回一回を大切に今後の活動に励みたいと思います。

活動地域より

令和四年は見晴らし台づくりに薪割り、夏に花植え。秋にはしめ縄にさいの神用のかやかりとありがとうございました。暑い中でのバーベキュー、芋煮会も絶品でしたね。また会える日を待っています。コロナに負けず学業成就を祈っております。

阿賀町中ノ沢　神田 惣一 様

担当教職員より

今年は森林散策、花植え、かやかりなどの活動に、見晴らしの丘の整備、しめ縄づくり、食事作りなども加わり、これらの経験を踏まえて「地域でやってみたいこと」をいろいろ考えました。中ノ沢地区の皆さんも参加学生・教職員・OBOG も元気になれる活動を展開することを期待しています。

経営戦略本部評価センター　　関　隆宏

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	大説明会
5 月	今年度初訪問（見晴らしの丘整備）
6 月	
7 月	1 年生初訪問（S ホーム通信配付、見晴らしの丘整備） 地域実習報告会
8 月	
9 月	
10 月	しめ縄づくり
11 月	かやかり
12 月	ダブルホームシンポジウム
1 月	
2 月	
3 月	

７月１７日　見晴らし台づくり

１０月２日　しめ縄づくり

T ホーム　ほりごたつ

ホームの概要

メンバー構成：1 年生 5 人、2 年生 9 人、3 年生 6 人、4 年生 5 人、教員 1 人、職員 2 人

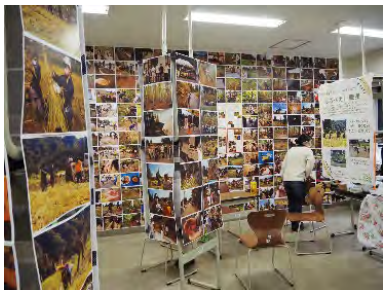
活動地域：十日町市松之山地区下川手集落

ミーティング：平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物

コシヒカリ「しちべえ」

1 年間の活動を通して、農薬・肥料を使わず、中干しをしない、生き物との共生を目指した湿地米「しちべえ」を、地域の方々と協働し、手作業でつくりました。



ダブルホームシンポジウム 2022 ホーム展
ほりごたつ「写真の家」

T ホーム活動地域である十日町市松之山地区下川手集落にある、民家一面に写真が貼り巡らされている「写真の家」を再現した展示を行いました。「写真の家」に入ったときの感動と迫力を追体験できるような展示を作成しました。

十日町×しちべえ×美人林＝ほりごたつ

活動目的と概要

私たちは十日町市松之山地区下川手集落で活動をしています。主な活動として、中干しや農薬を使わない環境に配慮した米作りを、地域の方々と協力しながら行っています。その他にも地域の清掃活動や地域行事へ参加しました。

私たちの活動目的は「自然と共存する」ことです。米作りでは、田んぼの生き物と共存するため広く用いられている米作りとは違った作り方をしています。このように自然・生き物を大切にし、学びながら様々な活動を行っています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

T ホームは、今年度の地域活動の目標を、パンフレット・米作りマニュアルの作成と地域活動の支援に設定しました。

パンフレット作りについては、活動が停滞していました。来年度は、どのように進めていくかを話し合い、形にしていきたいと考えています。米作りマニュアルは、昨年度作成したものを活動の前に学生間で共有をし、事前学習として活用しました。来年度は加筆修正をして、活動をよりイメージしやすくなるようにしていきたいです。また、N ホーム主催のおむすび・えんむすびプロジェクトに参加して、地域の特産品を知り、地域の魅力を再発見することができました。

地域活動の支援については、昨年度に引き続きコロナ対策を徹底して、道普請に参加し、地域の皆さんのお手伝いをしました。さらに、3 年ぶりに美人林でのお米の販売を行い、地域を盛り上げることができたと思います。蛍の看板を作り直す話が出ていましたが、実現には至らなかったため、来年度は作成できるように調整していきたいです。

【ホーム運営について】

今年度のホーム運営の目標として、①オンラインも活用し情報共有をしっかり行う、②活動に対する様々な業務を分担し皆がやるべきことを理解する、の二つを掲げていました。

定期ミーティングに関しては、一学期中はオンライン中心での実施でしたが対面授業の増加等の大学生活の変化や学生内でのニーズを踏まえて、二学期からは対面とオンラインの併用形式で実施しました。結果、学生の率直な意見を広く聞く機会の創出に繋がり、ホーム全体のコミュニケーションをこれまで以上に増やしていくことができました。

役割分担に関しては、学生によって役割の大きさや負担の重さに差が生じてしまう場面がありました。改善に向けては、活動の内容及びホーム自体を自分たちが作っていくという当事者意識を学生内で高めていき、地域活動内外に問わず積極的にホームに関わる学生を増やす必要があると考えます。今後はミーティング以外の交流の場や地域について考え意見交換をする機会を増やし、一人ひとりが責任感を持ちながら日々の活動を楽しむことのできるホームを目指します。

活動を通して学んだこと

私は今年度からＴホームの活動に参加させていただきました。米作りはこれまでやったこともなく、手探りで活動をしていくことが多かったのですが、地域の方々や教職員、先輩方の手助けのおかげで、無事に１年活動を終えることができ、私自身協力することの大切さを学びました。

遠藤　勇貴（法学部１年）

今年度は、例年にない活動として自分たちの趣味や近況などを下川手集落の皆様に発表する機会を設けました。発信した情報が会話のきっかけになったり、共通の趣味で盛り上がったりと、より一層交流を深めることができました。今後も自分たちのことを発信し、交流を深めたいと思います。

橋浦　みずほ（工学部３年）

私は今年度の活動を通して、地域そして地域の方々に寄り添うことの大切さを学びました。ダブルホーム参加当初は地域の課題解決のために何ができるかを考えることが重要だと思っていましたが、本当に大切なことは地域そして地域の方々に寄り添うことだと学ぶことができました。

小﨑　穂高（農学部２年）

今年度は就職活動の影響で例年のように全ての活動に参加することはできませんでした。それでも、久しぶりに地域の皆さんにお会いすれば温かく迎え入れてくださり、「第二のホーム」ということを実感し、繋がりの大切さを改めて学ぶことができました。ありがとうございました。

高祖　遼太郎（人文学部４年）

今後に向けて

次年度は昨年度とは 180°変わった地域活動をホームメンバー全員で企画し、活動していきたいと考えています。その具体例として、まずお米づくりに必要な肥料を地域にある自然のものを活用して作るといった活動を行えたらと考えています。また、今までは下川手集落の観光名所である美人林において散策がメインの活動でしたが、「かくれんぼ」や「ブナの実集め大会」などの活動も行えたらと考えています。

また、ホームメンバーとの絆を深める為に地域活動やミーティング以外にも、様々なレクリエーション活動や会を開催できたらと考えています。そして、活動地域の下川手集落の為に、自分たちには何が出来るかを、定期ミーティングとは別に話し合う機会も作れたら良いなと考えています。そうすることで、それが下川手集落を活性化させる事に繋がったり、ホームメンバー全体としての大きな成長にも繋がると考えています。次年度はこのような活動を企画・実行し、総合的に大きく躍進できるような活動ができたらと考えています。

活動地域より

残雪の中ブナの芽吹きと同時に苗代作りが始まり、暑さで汗だく、全身泥だらけで収穫まで頑張りました。皆さんと地域の魅力、おむすびプロジェクトの発表、近況報告、蛍観賞等、活動を通して多くの元気をもらいました。また、道普請では本当に助けていただきました。ありがとうございました。

十日町市松之山地区下川手集落　高波　悟　様

担当教職員より

学生の皆さんが生き生きと活動することによって、下川手の皆さんも他の学生たちも教職員も、周りのみんなが元気をもらって笑顔になることができます。皆さん既に実感できていますよね。これは社会生活においても同じです。さあ来年も生き生きと活動することの気持ちよさを味わいましょう。

医歯学系総務課　土田　秀樹

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	苗代作り
5 月	道普請
6 月	田植え、草取り 1 回目
7 月	草取り 2・3 回目
8 月	
9 月	
10 月	稲刈り、脱穀・精米
11 月	美人林祭りでのお米販売、道普請
12 月	
1 月	
2 月	送別会
3 月	

6 月 5 日　田植え

11 月 3 日　美人林祭りでのお米販売

ホーム　まほろば

ホームの概要

メンバー構成：　1 年生 4 人、2 年生 5 人、3 年生 10 人、4 年生 1 人、教員 3 人、職員 1 人

活動地域：　阿賀町津川地区

関連団体：　阿賀町役場

ミーティング：　平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物

風舟にて地域の方と作った
荏胡麻と胡桃味噌のおにぎり

地域実習報告会

いきいきと輝く津川地区

活動目的と概要

私たちは阿賀町津川地区で活動をしています。例年はログハウス開拓や畑活動を行っていましたが、地域に方々に任せきりになっている現状を議論した結果、上記 2 つの活動の断念を決定しました。2022 年度は新たな活動指針の模索を基本としながら地域の方々との関係発展に努め、ブックカフェ風舟を訪れるなど地域を「さらに知っていく」機会を設けることにも力を注ぎました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の目標は①対面活動を積極的に取り入れつつ、非対面でも活動できることを探していき、②長期的な活動の準備や計画を進めることでした。

まず①の対面活動を取り入れ、非対面活動を充実させることについては概ね達成できたのではないかと思います。今年度は対面でのミーティングが盛んに行われたことによりホーム内での交流の機会も多く、さらに地域の方々と調理活動を行うなど直接目を合わせて会話する機会を設けることが出来ました。

②の長期的活動の模索については大きな変化が見られないのが現状です。長期的かつ U ホームのシンボルとなるような活動を考えなくてはならないため、より慎重な議論を進めています。現在はブックカフェ・風舟の活用や阿賀黎明高校との交流などを検討中です。風舟の活用については、図書スペースの一部を間借りし、新潟大学での学びに関連する書籍や、学生一人一人のお気に入りの本を紹介するなど学生と地域の方々の交流の糸口となるような場となるような活動を検討中です。

【ホーム運営について】

U ホームの運営目標は全員が協力して物事に取り組めるようにすること、一人に負担が偏らないようにすることでした。

全体としては互いに声を掛け合いながら率先して仕事を引き受けるなど、一人一人の負担軽減に心がけられていたのではないかと思います。しかし、地域の方々とのコンタクトなど、どうしても一人に集中してしまう仕事については工夫の余地があったと感じます。

また、気軽に発言できるようなホームの雰囲気を作るという目標も学年ごとには達成できていたものの、学年の壁を越えた交流にはまだまだ改善の余地があったと思います。こういった学年を超えた交流を来年度には深めていけたらと考えています。

活動を通して学んだこと

私はＵホームの活動を通して、様々な人と協力することの大切さを学びました。地域実習報告会で好成績を収められのは、同学年の仲間と多くの時間を費やして発表準備をしたり、地域の方の協力があったりしたからこそだと思います。また、シンポジウムも多くの人との交流があったからこそ自分は有意義なイベントになったと思います。

佐藤 翔太（経済科学部１年）

私はＵホームの活動から人を歓迎することの大切さを学びました。実際に地域に訪れ、地域の方々の大きな支えや温かさを実感できる機会に恵まれたことで歓迎されることの喜びを実感しました。自らが歓迎して迎い入れることで、互いに心を開いて話すことができ、関係を発展させていくことができると学ばせて頂けたことに感謝しています。

野村 香実（人文学部２年）

私が活動を通して学んだことは、自ら行動しなければ何も始まらないということです。今年度はどのように活動するべきなのかとても悩んだ１年でした。しかし、メンバーと話し合って地域訪問を行ったり、地域の方とお話したりできました。ホーム内の絆も深めることができたと思います。

榎 南美（経済科学部２年）

１年間の活動から企画の難しさと達成感を学びました。私達は対面での活動制限や従来の活動の廃止を経験しました。しかし、地域の方もミーティングに参加していただくなど密に連携することで新しい道を作り上げることが出来ました。これからは企画の実行に向けて進んでいきます。

服部 香凜（経済科学部３年）

今後に向けて

ここ数年で主な活動としていた畑の活動が土地の関係で困難となり、地域で何を活動するのかが課題となっていましたが、シンポジウムでの地域の方や他のホームとの交流にて、再び畑を始められるかもしれないということや、津川だけでなく阿賀町に所属しているホームでの交流など、自分たちのホーム内だけでは出てこなかった活動に対する案が出てきました。次年度はホーム内で準備を行ってきたクイズ大会などの阿賀黎明高校との交流やシンポジウム内での案などを検討し、Ｕホームの新たな活動の中心となるようなものを準備していきたいと考えています。また、昨年度は地域活動を頻繁に実施できず、地域に行ったとしても似たような活動内容ばかりになってしまっていたため、充実した地域活動ができるように事前準備や事前調査をしっかりと行いたいと考えております。ホーム内だけでなく、地域の方とも今まで以上に話し合い、協力して長い目で続けられる活動づくりを行っていきます。

活動地域より

４ 年間という大学生活の中で関わろうと選んでくれたホーム。始まりはどんな理由でもきっといいんです。せっかくなので、あなたと小さな何かをつくってみたいです。自分が手を入れたものや顔見知りが増えると、町はさらに楽しいですよ！まず次の４月、何をしますか？

阿賀町津川地区　平原 理紗子 様

担当教職員より

今年度の活動に参加した学生たちから、ダブルホームの重要性に学生同士の支え合いが挙げられていました。地域の方々からの大きな支援に対して学生たちも熱意をもって答えようとする姿勢は、まさにダブルホームならではの雰囲気でした。何よりも学生自身が協力し、より良い結果となるように万全の態勢で臨むことが大切だと話してくれたことが印象的です。地域の皆様から学ばせて頂き、仲間との時間から成長する機会を得たことが素晴らしいと感じています。

教育学部　村山 敏夫

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	大説明会
5 月	引継ぎ準備
6 月	地域実習　街歩き
7 月	風舟交流会への参加 地域実習報告会
8 月	
9 月	地域の方々との zoom ミーティング
10 月	動画作成
11 月	クイズ大会準備
12 月	ダブルホームシンポジウム
1 月	
2 月	
3 月	

６月１８日　風舟を訪れる

６月１８日　ハーバルパーク

V ホーム　かわせみ

地域の方々との深い交流と地域の更なる魅力発信

ホームの概要

メンバー構成：　1 年生 5 人、2 年生 5 人、3 年生 5 人、4 年生 8 人、修士以上 1 人、教員 2 人、職員 2 人

活動地域：　糸魚川市小滝地区

関連団体：　ひすいの郷つくる会
糸魚川市役所

ミーティング：　平日昼休み週 1～2 回程度

成果物・制作物

地域実習報告会の発表内容をまとめた「V ほーむだより」
地域の方へ様々な質問を行い、それを元に素晴らしいスライド作成・発表を行いました。

ささむすび
DH 全体としての企画としての
おむすびプロジェクトでは、
小滝地区の郷土料理笹寿司をアレンジして
出展しました。
6 月の高浪まつりや公民館でのポスター掲示
もして頂けました。

活動目的と概要

私共 V ホームは、主として新潟県糸魚川市小滝地区での活動を行っています。高齢化が深刻な地域でもありますが、明星山に代表される、非常に雄大な自然を味わえる魅力的な地域です。V ホームでは、今年度の目標を「現地訪問を通して目で見て肌で感じた小滝地区の魅力を、SNS 等を用いて発信すること」として、昨年に引き続き大手 SNS 媒体を用いた情報発信を行うと同時に YouTube チャンネルの開設の準備を進め、情報発信の強化を行いました。行動制限が緩和された今年度は地域のイベントの手伝いや懇談会にも積極的に取り組みました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

「①コロナウイルス対策を十分にした活動を行うだけではなく、Zoom 等を用いた非対面での交流を増やす等、小滝地区の方々との前年度以上に交流を増やす。また、そこで交流するだけではなく、②小滝地区について学んだことや魅力を、SNS 等を用いて発信する」を目標として活動しました。

①の面では、新型ウイルスによる行動制限が続く上半期においては、Zoom を活用した地域実習の実施、緩和された下半期は感染対策の上で複数回に渡って対面で現地の方々との懇談会の場を設けました。V ホームに対して期待される活動や実際に地域が慢性的に抱く課題について、生の声を伺い、次年度以降の具体的な活動のイメージを膨らませることができました。

②の面においては、先の項目の地域の方々によるホームへ期待される点として、大学生ならではの情報発信を挙げて頂きました。現地訪問の都度、SNS 媒体への投稿を行った他、動画投稿サイトでの発信の準備もスタートさせています。また、6 月訪問で参加した「高浪まつり」ではポスター等の紙媒体でのホーム紹介や地域 PR の掲示を行い、様々な手法で魅力発信を行いました。しかし、「高浪まつり」や「小滝まるごとウォーキング」の参加などで地域の方々との協働も行えたものの、地域の景色以外の風俗的なものも含め、地域を総合的に発信するまでは至れなかったことは課題となるものと考えます。

【ホーム運営について】

「状況が改善されれば対面での交流を増やしていく等、基準に合わせて行える活動を検討していく。また、ホーム内活動において、Zoom ミーティングでは少人数グループでの積極的な発言をする場を設ける等、親密な関係が作れる環境づくりを進める」ことを目標に活動を行いました。

ホーム運営の面でも感染症による行動制限の緩和によって、ミーティングの対面開催を積極的に行い、参加者間の親睦を深められました。また、状況が好転したことで将来の活動で行いたいものなど、よりポジティブな意見交換が可能になりました。しかし、昨年同様に日常的な活動参加者の顔ぶれが限られており、活動に参加し、続けたいと思える組織風土の醸成や日常的な地域との交流など新鮮さを欠かさないホームの運営を行っていきたいと考えます。

活動を通して学んだこと

私がＶホームの活動内で印象深かったのは、やはり小滝地区への訪問です。明星山の圧倒的な自然美とそれを映し出す高浪の池の景色は、ここ最近で見た景色でも１番美しい景色と言っても過言では無い程に美しいものでした。

梅津　詠気（経済科学部１年）

Ｖホームに所属してから早３年。小滝ウォーキングへの初参加や小滝地区の方々とのお話し合い等、例年通りの活動を行えた事で、小滝地区の自然の美しさ・地域の方々の温かさに、より気付くことができた１年でした。

鈴木　浩紀（経済科学部３年）

直接の訪問、直接の会話、そういった場を全４回のフルでもてることの充実感を大学生になって初めて感じた１年になったと感じています。更に小滝を知らなければ、より深い活動はできないと感じ、更に少し後ろ向きの考え方になりやすかったことは反省点と気づかされました。

木村　駿斗（経済科学部２年）

今年度の大きな活動として、３年ぶりの小滝ウォーキングへの参加が挙げられると思います。前回とは違うルートだったので、小滝の新たな一面を知ることができました。小滝ウォーキングをはじめ、去年より活動を活発に行えた１年だったと思います。

村越　笙（法学部４年）

今後に向けて

懇談会、イベント参加によって、耳・目そして各々の足で小滝地区の自然と現状、地域の皆様の温かさを感じられました。また、３月訪問でのレクリエーション企画では、工作やクイズなどの企画を通じて更なる交流を図れたものと考えます。今年度の経験を用い、来年度以降はホーム内で完結せず、地域の皆様と共同したプロジェクトの構築やイベント等での出し物の拡充など、コロナ禍で難しかった(物理的、精神的にも)距離を縮めるための活動を増やしていくことが必要と強く感じます。

地域訪問以外の面では、通常時のミーティングの参加率やホームの継続率の向上が重要な課題です。アクティブなメンバーは多いものの、毎回参加する学生は非常に少なく、重要な決定事項は参加率が高い固定されたメンバー間のみで進めざるをえない状況でした。多くのメンバーの日常的な参加率が向上するよう、日常の活動は惰性でなく、地域の方との日常的な交流の場にするミーティング回や親睦に重きを置いたミーティング回などによって、新鮮さを強め、参加したくなる組織風土の構築を行っていきたいと考えます。

そして、糸魚川だけに常にホームと小滝地区が「いと」おしくなる、そういったホームを目指します。

活動地域より

Ｖホームの活動は、地域の抱えている課題を共有することからスタートしています。社会や地域の人とのつながりが大切な経験となり、双方の発展になることと確信しております。大いに一緒に考える機会を増やし、地域にはない若い力で更なる課題発見と企画力に期待しております。

糸魚川市集落支援員　池亀　俊幸　様

担当教職員より

大学生活は自分の思い次第で様々なことを自由に経験できる数年間です。ダブルホームは楽しいことばかりではなく、大変なことも多いかと思いますが、活動を通じて得られる経験はきっと皆さんの糧となります。「やりたいこと」を軸にこれからもいろいろなことに挑戦してみてください。応援しています！

医歯学総合病院経営企画課　阿部　聡一郎

活動記録（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

4 月	おむすびプロジェクト(ささむすび)試作、大説明会
5 月	
6 月	現地訪問(高浪まつり出展・懇談会)
7 月	新加入生対面顔合わせ 地域実習報告会
8 月	現地訪問(大糸線乗車・地域懇談会)
9 月	
10 月	
11 月	現地訪問(小滝まるごとウォーキング参加・出し物企画運営)
12 月	シンポジウム用コマーシャル制作 ダブルホームシンポジウム
1 月	
2 月	
3 月	現地訪問(レクリエーション[工作・クイズ・輪投げ等])

8 月 27 日
高浪の池展望台

11 月 6 日　小滝まるごとウォーキング
（ラジオ体操第２を行う模様）

新潟大学ダブルホーム 2022 年度　活動報告書

発行日　2023 年 9 月
発行者　新潟大学　教育基盤機構　未来教育開発部門
ダブルホーム支援室

〒950－2181 新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地
総合教育研究棟 B454

TEL：　025-262-6309
FAX：　025-262-6991
E-mail:　home@ge.niigata-u.ac.jp

印刷　富士印刷株式会社

新潟大学ダブルホーム

ソーシャルメディアをチェック！

ダブルホームの活動の様子を配信中！

Homepage　X（旧 Twitter）　Instagram　LINE　Facebook

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。